

2019

# 動物看護科 シラバス



学校法人京都中央学院

YIC京都ペット総合専門学校

## シラバスとは

シラバスとは講義概要であり授業全体の計画書のことです。授業の目標・内容・参考図書・成績評価の方法などが記され、皆さんが授業内や授業外で学修を行うための指針を示すものです。

教員は、この指針に従って授業を行うこととなります。したがってシラバスは授業計画を学生と教員との間で共有する、「契約書」に近い位置づけのものです。シラバスに記載された目標を達成するために、教員は授業を通して学生である皆さんに知識と技術を習得させる義務を負います。逆に皆さんは授業に出席する義務を負うこととなります。

また広い意味では、本校が地域社会に対して本校の教育の質を担保するものでもあります。

実際に授業が行われるにあたって、学生や教員があらかじめ準備したり、従うべき事項等を共有する文書となります。授業で行われる内容があらかじめ記載されていますので、学生は授業に臨む際に前もって準備を行うことができますし、記載されている評価方法に向けての学修などを行うこともできます。

シラバスを作成する過程で、教員が自らの行う授業の内容、評価方法などの具体的構造を見直すことができ、自分の授業を見直す良い機会になります。

皆さんは、このシラバスを活用して、悔いのない学生生活を送っていただくようお願いします。

動物看護科 教育課程

区分	科目名			1年		2年		合計									
	分野	学習目標/大科目名	科目	単位	時間	単位	時間	単位	時間								
(専門基礎分野) 必修科目	基礎動物看護学	動物の体と構造と機能を理解する	動物形態機能学Ⅰ	1	30			5	150								
			動物形態機能学Ⅱ	1	30												
			動物形態機能学Ⅲ	1	30												
			動物形態機能学Ⅳ	1	30												
			動物繁殖学	1	30												
		動物病理学			1	30											
		疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	動物薬理学Ⅰ	1	30			6		180							
			動物薬理学Ⅱ	1	30												
			動物感染症学Ⅰ	1	30												
			動物感染症学Ⅱ	1	30												
	動物感染症学Ⅲ		1	30													
	人と動物の調和に関わることを学ぶ	動物看護学概論Ⅰ	1	30			8	240									
		動物看護学概論Ⅱ	1	30													
		動物医療関連法規	1	30													
		公衆衛生学Ⅰ	1	30													
		公衆衛生学Ⅱ	1	30													
		動物人間関係学			1	30											
		動物福祉・倫理	1	30					5	135							
		動物行動学	1	30													
		伴侶動物学Ⅰ	1	30													
		伴侶動物学Ⅱ	1	30													
	産業動物学			1	30												
	臨床動物看護学	動物の臨床看護に必要な知識を修得する	実験動物学			1	15	8	240								
			野生動物学			1	30										
			動物内科看護学	1	30												
			動物外科看護学Ⅰ	1	30												
			動物外科看護学Ⅱ	1	30												
動物病院業務に必要な知識を修得する		動物臨床看護学各論Ⅰ	1	30			5	150									
		動物臨床看護学各論Ⅱ			1	30											
		動物臨床看護学各論Ⅲ			1	30											
		動物臨床看護学各論Ⅳ			1	30											
		動物臨床栄養学Ⅰ	1	30													
動物臨床栄養学Ⅱ			1	30													
動物臨床検査学Ⅰ	1	30			5	150											
動物臨床検査学Ⅱ	1	30															
動物臨床検査学Ⅲ	1	30															
動物医療コミュニケーション				1	30												
必修科目(専門基礎分野)計				27	810		10	285	37	1,095							
(専門基礎分野) 必修科目	実習	修得した知識の実践力を身につける	動物形態機能学実習Ⅰ	1	30				17	555							
			動物形態機能学実習Ⅱ	1	15												
			産業動物学実習				1	15									
			動物内科看護学実習Ⅰ	1	30												
			動物内科看護学実習Ⅱ				1	30									
			動物内科看護学実習Ⅲ			1	30										
			動物臨床検査学実習Ⅰ	1	30												
			動物臨床検査学実習Ⅱ	1	30												
			動物臨床検査学実習Ⅲ	1	30												
			動物外科看護学実習Ⅰ	1	30												
			動物外科看護学実習Ⅱ			1	30										
			動物外科看護学実習Ⅲ			1	30										
			動物臨床看護学実習Ⅰ			1	15										
			動物臨床看護学実習Ⅱ			1	30										
			動物看護総合実習Ⅰ	1	45												
動物看護総合実習Ⅱ			1	90													
動物看護総合実習Ⅲ			1	45													
必修科目(専門基礎分野)計				8	240	9	315	17	555								
必修科目(専門基礎分野+専門分野)計				35	1,050	19	600	54	1,650								
(社会人基礎分野) 必修科目	社会の中で自分の役割を考える	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1	30			1	30								
			キャリアデザインⅡ	1	30												
		ボランティア活動	ボランティア活動Ⅰ	1	30					1	30						
			ボランティア活動Ⅱ			1	30										
	社会人として必要なビジネス能力	損害保険学	損害保険学	1	30			1		30							
			基本IT技術			1	30										
		基本IT技術	基本IT技術Ⅰ			1	30					1	30				
			基本IT技術Ⅱ			1	30										
	社会人として持つべき基礎的教養	イベントプロデュース	イベントプロデュース	1	30			1				30					
			社会常識	社会常識			1							30			
		日本文化	日本文化	1	30									1	30		
			ビジネス文章力			1	30										
		ビジネス文章力	ビジネス文章力Ⅰ	1	30									1		30	
			ビジネス文章力Ⅱ			1	30										
		コミュニケーション	コミュニケーション			1	30							1			30
			プレゼンテーション	プレゼンテーション			1										
	環境整備	環境衛生学	1	30			1	30									
		フィットネス	フィットネス	1	30												
専門を深める	動物飼育実習	動物飼育実習Ⅰ	1	30			1		30								
		動物飼育実習Ⅱ			1	30											
		動物飼育実習Ⅲ			1	30											
	動物看護師総合学	統一試験対策Ⅰ			1	30	1				30						
		統一試験対策Ⅱ			1	30											
		統一試験対策Ⅲ			1	30											
必修科目(社会人基礎分野)計				10	300	11	330			21			630				
選択科目(社会人基礎分野)計					30	1	30			2			60				
必修科目+選択科目 総計				46	1,380	31	960			77		2,340					

・単位と時間の関係は 講義は15～30時間/単位(自宅学習を含む)のもの、実習は15～45時間/単位のものに分かれる

・科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある

・卒業の要件: 必修科目75単位(2,280時間)以上の履修

2019年度 シラバス

科目名	動物形態機能学Ⅰ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。							
授業の一般目標	動物形態機能学総論 ・生命の成り立ちを化学物質レベルから個体レベルまで理解し、図式化できる ・細胞膜を含む細胞の構造と機能を理解し、絵を描き説明ができる ・動物の組織(上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織)について、その構造と機能について理解し設問に答えることができる ・動物の体を構成する体液の特徴を理解し、アシドーシスやアルカローシスの説明ができる ・神経組織の組成を書ける、各種神経を中枢神経と末梢神経に分類できる、交感神経と副交感神経の機能についての設問に正しく答えられる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 細胞・組織・神経について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
生物学を基礎とし、さらに獣医学的領域にまで深めた座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	形態機能学とは	形態学(解剖学)とは何か、機能学(生理学)の意味を知る			P3~7			
第2回	細胞と組織	1. 体をつくる一番小さな構造:細胞			P9~12			
第3回		2. 多くの細胞から成る組織						
第4回	細胞分裂と遺伝子	3. 細胞が増えていく過程			P12~16			
第5回		4. 遺伝子から体がつくられていく仕組み						
第6回	細胞膜とホメオスタシス	5. 細胞膜の大切な役割:体液との関わり			P16~22			
第7回		6. 適切な状態を保つ仕組み:ホメオスタシス						
第8回	生物学の復習	植物性機能と動物性機能			*動物形態機能学(インターズー出版) P303~306他			
第9回		性と遺伝、生殖の方法、メンデルの遺伝の法則 生命の維持システム						
第10回	神経細胞	1. ニューロンとそのつながり			P23~40			
第11回	情報伝達	2. 情報伝達のしくみとシナプス						
第12回	神経系の種類	3. 中枢神経系と末梢神経系						
第13回	神経の復習	確認問題						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			*学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	林			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019度 シラバス

科目名	動物形態機能学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。							
授業の一般目標	動物形態機能学各論① ・皮膚の主な機能7つを挙げ、説明を箇条書きで記すことができる ・味らいの種類を答えることができる ・耳を構成する各器官を外耳、中耳、内耳に分類することができる ・犬猫の視覚の特徴についての設問に正しく答えられる ・教科書に記載されている骨や筋肉の名称について、その名称と位置を暗記する ・呼吸系の解剖名称を暗記し、内呼吸・外呼吸の違いを説明できる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 感覚器・骨・筋肉・呼吸について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
生物学を基礎とし、さらに獣医学的領域にまで深めた座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	感覚器-眼、耳、味覚、嗅覚、痛覚	眼、耳の構造と機能				P41～51		
第2回		味覚、嗅覚、痛覚の仕組み						
第3回	感覚器-皮膚	皮膚の組織構造と機能				P52～54		
第4回		付属器：被毛、皮膚腺、爪 鳥類の感覚器						
第5回	骨格	骨格系の成り立ちと構造、機能				P57～66		
第6回		関節の構造と働き						
第7回	筋肉	筋系の成り立ちと構造、機能				P66～73		
第8回								
第9回	呼吸器の成り立ちと構造、働き	1. 呼吸とは				P75～79		
第10回		2. 呼吸に関わる器官 3. 肺に空気が入る仕組み						
第11回	ガス交換他	4. 5ガス交換				P80～84		
第12回		6. 呼吸商 7. 動物ごとの呼吸数 8. 呼吸の調節 9. 鳥類の呼吸						
第13回	復習	補足事項 確認テスト				P55. 74. 85		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S) : 100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B) : 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D) : 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	林			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物形態機能学Ⅲ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。							
授業の一般目標	動物形態機能学各論② ・犬・猫の歯式を書くことができ、歯式の意味を説明できる ・歯の構造を簡単に描くことができる ・小腸と大腸の区分と働きについて自分でまとめることができる ・各消化器の位置と働きを暗記する ・動脈、静脈、心臓の弁、刺激伝導系、体循環、肺循環について自分の言葉で説明できる ・血漿と血球成分(赤血球、白血球、血小板)の特徴について理解し、血液塗抹標本上での各細胞の絵を描ける ・腎臓・ネフロン構造を理解し図説できる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 消化吸収、心臓血液循環、泌尿器系について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
生物学を基礎とし、さらに獣医学的領域にまで深めた座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	消化吸収の基本	消化器系の成り立ちと構造、働き 口腔、胃、小腸、膵臓、肝臓、胆嚢、大腸、排泄	P87～99					
第2回								
第3回	消化器系：動物ごとの違い	歯、消化管	P99～103					
第4回								
第5回	心臓のつくりと機能 心臓が動く仕組み	心臓の位置と外形、内部構造、刺激伝導系、拍出機能、血圧、心電図	P105～119					
第6回								
第7回	血液循環 造血	血管の種類と構造と働き、体循環と肺循環、リンパ系とリンパ管、胎児循環						
第8回								
第9回	泌尿器系の成り立ちと構造	1. 排泄の理由 2. 排尿 3. 排便	P121～129					
第10回								
第11回	体液調節と尿生成	2. 排尿 4. 鳥類と爬虫類における窒素化合物の排泄						
第12回								
第13回	復習	補足事項 確認テスト	P104. 120. 129					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要					
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S) : 100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B) : 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D) : 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	林		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物形態機能学Ⅳ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。							
授業の一般目標	動物形態機能学各論③ ・免疫系に働く細胞および一連の免疫応答の説明ができる。 ・生殖器の構造を図示できる。 ・動物による繁殖や発情の差異を簡単に説明できる。 ・ホルモンとは何か答えることができる ・ホルモンの名称を暗記し、それぞれの作用を答えることができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 免疫とは何か、内分泌とは何かを説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
生物学を基礎とし、さらに獣医学的領域にまで深めた座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	免疫-体を守る仕組み	1. 皮膚				P131～132		
第2回		2. 体毛						
第3回	免疫-生体の防御システム	白血球の種類と役割				P132～135		
第4回		液性免疫と細胞性免疫 ワクチン接種、アレルギー						
第5回	雄性生殖器と雌性生殖器	基本構造				P137～142		
第6回		代表的な生殖器系疾患						
第7回	発情、胎子、比較解剖、繁殖と遺伝	発情期と性成熟				P142～149		
第8回		妊娠と出産 繁殖や発情の動物ごとの違い 遺伝の法則と遺伝疾患						
第9回	内分泌系とホルモン	内分泌とは				P151～152		
第10回		内分泌機能と作用 内分泌系器目と分泌腺						
第11回		代表的なホルモンとその働き				P152～161		
第12回								
第13回	復習	補足事項 確認テスト				P60～76		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	林		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019度 シラバス

科目名	動物繁殖学	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ助産と性別疾病予防について飼主指導に活かす。また犬猫以外の動物の繁殖生理の特徴を知る。							
授業の一般目標	①主に犬猫の生殖器の構造と発生を理解し、説明できる ②受精と妊娠及び妊娠診断の方法や、正常分娩と異常分娩の判断方法、産褥について理解し、飼主にわかるよう簡単に説明できる。 ③繁殖に伴う遺伝的要因を挙げることができる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版 第2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物繁殖学の概論、分娩・新生児、遺伝学について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
解剖学の復習を踏まえた座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物繁殖学総論	犬の繁殖、性成熟、繁殖生理			P143			
第2回		猫の繁殖、性成熟、繁殖生理			P143			
第3回	雄性生殖器と雌性生殖器の復習	基本構造 代表的な生殖器系疾患 * 確認テスト含む			P137~142			
第4回								
第5回	発情、胎子、比較解剖、繁殖と遺伝の復習	発情期と性成熟 妊娠と出産 繁殖や発情の動物ごとの違い 遺伝の法則と遺伝疾患 : 確認テスト含む			P142~149			
第6回								
第7回	生殖機能調節に関わるホルモン	雄犬および雄猫の生殖系ホルモン分泌の推移 雌犬および雌猫の生殖周期における生殖系ホルモンの分泌の推移			* 動物形態機能学 (インターズー出版) P290~292			
第8回	発情徴候と発情周期	性成熟、発情徴候、発情周期、交尾、交配適期、交尾様式			* 動物形態機能学 (インターズー出版) P292~297			
第9回	受精と妊娠	受精、胚の発育および着床、胎膜と胎盤、妊娠診断、偽妊娠			* 動物形態機能学 (インターズー出版) P298~301			
第10回	分娩	分娩徴候、分娩様式と経過、難産、分娩後の状況			* 動物形態機能学 (インターズー出版) P302~303			
第11回	新生子管理	条件の異なる新生子の管理 (自然分娩、母親のいない新生子、帝王切開の新生子) 感染症、代表的な新生子疾患						
第12回	遺伝学の基礎と応用	遺伝の法則			* 動物形態機能学 (インターズー出版) P304~306他			
第13回		遺伝性疾患			第3巻P53~58			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			* 学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			



2019年度 シラバス

科目名	動物薬理学 I	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獣医臨床における薬物治療の概念、目的を理解する。</li> <li>・薬理作用とその発現機構を理解する。</li> <li>・薬物動態と半減期、耐性について理解する。</li> <li>・薬物間相互作用について理解する。</li> <li>・投薬量を計算できる。</li> <li>・各種投薬法を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる。</li> <li>・薬物の適切な管理方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全身麻酔薬・局所麻酔薬について理解する。</li> <li>・鎮痛薬について理解する。</li> <li>・運動神経系に作用する薬について理解する。</li> <li>・鎮静薬、抗けいれん薬について理解する。</li> <li>・問題行動の治療に用いられる薬について理解する。</li> <li>・呼吸興奮薬について理解する。</li> <li>・鎮咳薬について理解する。</li> <li>・気管支拡張薬について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第3巻 動物の疾病と予防及び回復(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物薬理学総論①	薬理学を学ぶ意味・目的を知る。／薬物治療の概念と目的 医薬品の分類と法規(適正な管理方法と保管)①			P152~154			
第2回	動物薬理学総論②	医薬品の分類と法規(適正な管理方法と保管)② 新薬の開発過程			P152~154			
第3回	薬物の剤形と投与方法	薬物作用とその発現機構／薬の作用と受容体 薬物の化学的性質、剤形と投与方法(内服薬、注射薬、外用薬／ 長所と短所)			P155~158			
第4回	薬物動態	生体内での薬物の動態／薬効に影響を与える因子 有害作用の分類と機序、動物種差			P158~160			
第5回	半減期と中毒 薬剤耐性	薬物における半減期とは／薬物における中毒とは 薬剤耐性の定義／薬剤耐性の獲得／医学上の課題と対策			-			
第6回	神経系に作用する薬物①	麻酔薬①(全身麻酔薬)			P161~163			
第7回	神経系に作用する薬物②	麻酔薬①(局所麻酔薬) 鎮痛薬①			P163~166			
第8回	神経系に作用する薬物③	鎮痛薬② 運動神経系に作用する薬			P164~166			
第9回	神経系に作用する薬物④	鎮静薬と抗けいれん薬			P167~169			
第10回	神経系に作用する薬物⑤	行動異常の治療薬(行動異常とは／行動異常の治療薬の種類)			P169~171			
第11回	呼吸器系に作用する薬物	呼吸興奮薬 ・ 鎮咳薬 ・ 去痰薬 ・ 気管支拡張薬			P172~173			
第12回	薬用量の計算①	薬用量の計算方法を知り、実際に計算し必要量を算出できるようになる			P216~222			
第13回	薬用量の計算②	薬用量の計算方法を知り、実際に計算し必要量を算出できるようになる			P216~222			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤邊 厚太		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物薬理学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血管拡張薬について理解する。</li> <li>・新不全治療薬について理解する。</li> <li>・抗不整脈薬について理解する。</li> <li>・利尿薬について理解する。</li> <li>・制吐薬について理解する。</li> <li>・制酸薬、胃粘膜保護薬について理解する。</li> <li>・止瀉薬、瀉下薬について理解する。</li> <li>・肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する。</li> <li>・酵素製剤について理解する。</li> <li>・代表的なオータコイドについて理解する。</li> <li>・糖尿病治療薬について理解する。</li> <li>・甲状腺ホルモン製剤について理解する。</li> <li>・ステロイドホルモン製剤について理解する。</li> <li>・抗貧血薬について理解する。</li> <li>・血液凝固抑制薬について理解する。</li> <li>・血液凝固促進薬について理解する。</li> <li>・非ステロイド系抗炎症薬について理解する。</li> <li>・免疫抑制薬について理解する。</li> <li>・抗菌薬について理解する。</li> <li>・抗真菌薬について理解する。</li> <li>・駆虫薬、殺虫薬について理解する。</li> <li>・抗がん剤について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第3巻 動物の疾病と予防及び回復(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	循環器・泌尿器に作用する薬物①	血管拡張薬(降圧薬) 心不全治療薬(強心薬)				P174~177		
第2回	循環器・泌尿器に作用する薬物②	抗不整脈薬 利尿薬				P177~179		
第3回	消化器に作用する薬物①	制吐薬・抗潰瘍薬 消化管運動に作用する薬				P180~182		
第4回	消化器に作用する薬物②	止瀉薬と瀉下薬 肝疾患、胆道疾患の治療薬				P182~185		
第5回	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物①	オータコイドとは(分類)				P186~189		
第6回	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物②	糖尿病治療薬				P189~192		
第7回	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物③	甲状腺障害の治療薬 ステロイドホルモン				P192~195		
第8回	血液・免疫系に作用する薬物①	抗貧血薬 血液凝固抑制薬と血液凝固促進薬(止血薬)				P196~198		
第9回	血液・免疫系に作用する薬物②	抗炎症薬 免疫抑制薬				P198~203		
第10回	化学療法薬①	消毒薬 殺虫薬				P204~206		
第11回	化学療法薬②	抗菌薬 抗真菌薬				P206~209		
第12回	化学療法薬③	駆虫薬(抗蠕虫薬)、抗原虫薬				P209~211		
第13回	化学療法薬④	抗腫瘍薬				P211~215		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤邊 厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/			

2019年度 シラバス

科目名	動物感染症学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細菌の分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・ウイルスの分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・真菌の分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・検体採取と取扱いについて理解する。</li> <li>・微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する。</li> <li>・微生物培養法について理解する。</li> <li>・抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法について理解する。</li> <li>・薬剤感受性試験について理解する。</li> <li>・原虫の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・蠕虫の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・衛生動物の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・寄生虫疾患の検査・診断法を理解する。</li> <li>・駆虫薬や駆除剤の使用法を理解する。</li> <li>・病原体の感染経路と伝播様式を理解する。</li> <li>・感染症の成立要因を理解する。</li> <li>・主な感染症の症状、治療法、予防法を理解する。</li> <li>・消毒・滅菌法について理解する。</li> <li>・院内感染の予防対策について理解する。</li> <li>・免疫担当細胞とその役割について理解する。</li> <li>・自然免疫と獲得免疫について理解する。</li> <li>・液性免疫と細胞性免疫について理解する。</li> <li>・アレルギーと自己免疫疾患について理解する。</li> <li>・ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト: ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第3巻 動物の疾病と予防及び回復(第2版)」 参考書: インターズ出版「寄生虫ビジュアルガイド」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物感染症の概論、微生物について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物感染症学総論 動物感染症の成立	感染症の定義 感染成立の3要素、動物感染症の経過と理解、動物感染症の流				P60		
第2回	感染と発症	潜伏期、不顕性感染、日和見感染、自然宿主、中間宿主と終宿主、媒介動物、ベクター				P60		
第3回	感染の経路	水平感染と垂直感染、感染経路の種類				P60~61		
第4回	宿主の感受性	感染防御、自然免疫、獲得免疫				P62		
第5回	感染経路の具体的な遮断方法	各感染経路の遮断について(経口感染、経皮感染、創傷感染、飛沫感染)						
第6回	病原微生物とは 細菌①	病原微生物とは 細菌とは。構造と分類				P63~64		
第7回	細菌②	増殖、細菌の培養と同定、治療				P64~67		
第8回	細菌③	緑膿菌感染症、パツツレラ症、ブルセラ症				P67~68		
第9回	細菌④	ボルデテラ症、犬のライム病、カンピロバクター症、破傷風				P69~70		
第10回	細菌⑤	結核、膿皮症、子宮蓄膿症、外耳道炎等				P70~74		
第11回	細菌⑥	特殊な細菌(マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア)				P76~78		
第12回	真菌①	真菌とは、構造と種類、検査、治療と予防				P80~82		
第13回	真菌②	マラセチア症、クリプトコッカス症、カンジダ症等				P82~86		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	蛭多		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細菌の分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・ウイルスの分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・真菌の分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・検体採取と取扱について理解する。</li> <li>・微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する。</li> <li>・微生物培養法について理解する。</li> <li>・抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法について理解する。</li> <li>・薬剤感受性試験について理解する。</li> <li>・原虫の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・蠕虫の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・衛生動物の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・寄生虫疾患の検査・診断法を理解する。</li> <li>・駆虫薬や駆除剤の使用法を理解する。</li> <li>・病原体の感染経路と伝播様式を理解する。</li> <li>・感染症の成立要因を理解する。</li> <li>・主な感染症の症状、治療法、予防法を理解する。</li> <li>・消毒・滅菌法について理解する。</li> <li>・院内感染の予防対策について理解する。</li> <li>・免疫担当細胞とその役割について理解する。</li> <li>・自然免疫と獲得免疫について理解する。</li> <li>・液性免疫と細胞性免疫について理解する。</li> <li>・アレルギーと自己免疫疾患について理解する。</li> <li>・ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第3巻 動物の疾病と予防及び回復(第2版)」 参考書:インターズー出版「寄生虫ビジュアルガイド」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物感染症の内部寄生虫、外部寄生虫について説明ができる。 2. 犬猫の代表的な感染症をそれぞれ説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ウイルス①	一般性状、構造と大きさ、分類、培養、増殖、変異、治療				P87~90		
第2回	ウイルス②	犬パピローマ症、犬パラインフルエンザ、猫汎白血球減少症、猫カリシウイルス感染症等				P94~97		
第3回	寄生虫①	寄生虫とは、寄生形態、分類、生活環、生殖法、感染経路、伝播様式、病害と反応、予防対策と制御				P103		
第4回	寄生虫②(内部寄生虫)	原虫、蠕虫類(線虫)				P103~109		
第5回	寄生虫③(内部寄生虫)	蠕虫類(吸虫、条虫)				P103~109		
第6回	寄生虫④(外部寄生虫)	ダニ類				P110~115		
第7回	寄生虫⑤(外部寄生虫)	シラミ・ハジラミ類、ノミ類、双翅類				P110~115		
第8回	犬猫の代表的な感染症①	狂犬病、ジステンパー				P90~92		
第9回	犬猫の代表的な感染症②	犬アデノウイルス、犬パルボウイルス				P91~93		
第10回	犬猫の代表的な感染症③	犬コロナウイルス、レプトスピラ症				P93、P68		
第11回	犬猫の代表的な感染症④	猫ウイルス性鼻気管炎、F e L V				P96		
第12回	犬猫の代表的な感染症⑤	F I V、F I P				P96~98		
第13回	犬猫の代表的な感染症⑥	クラミジア、猫ヘモプラズマ症、皮膚糸状菌症				P98、P97、P82~83		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	蛭多			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅲ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細菌の分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・ウイルスの分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・真菌の分類、携帯、増殖方法および病原性について理解する。</li> <li>・検体採取と取扱いについて理解する。</li> <li>・微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する。</li> <li>・微生物培養法について理解する。</li> <li>・抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法について理解する。</li> <li>・薬剤感受性試験について理解する。</li> <li>・原虫の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・蠕虫の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・衛生動物の分類、形態、生活環および病原性について理解する。</li> <li>・寄生虫疾患の検査・診断法を理解する。</li> <li>・駆虫薬や駆除剤の使用法を理解する。</li> <li>・病原体の感染経路と伝播様式を理解する。</li> <li>・感染症の成立要因を理解する。</li> <li>・主な感染症の症状、治療法、予防法を理解する。</li> <li>・消毒・滅菌法について理解する。</li> <li>・院内感染の予防対策について理解する。</li> <li>・免疫担当細胞とその役割について理解する。</li> <li>・自然免疫と獲得免疫について理解する。</li> <li>・液性免疫と細胞性免疫について理解する。</li> <li>・アレルギーと自己免疫疾患について理解する。</li> <li>・ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第3巻 動物の疾病と予防及び回復(第2版)」 参考書:インターズー出版「寄生虫ビジュアルガイド」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ワクチンについて説明できる。 2. 感染症予防における滅菌・消毒の重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	産業動物の代表的な感染症①	乳房炎、口蹄疫						
第2回	産業動物の代表的な感染症②	伝染性海綿状脳症、高病原性鳥インフルエンザ						
第3回	実験動物の代表的な感染症①	腎症候性出血熱、サルモネラ症						
第4回	実験動物の代表的な感染症②	センダイウイルス、肺マイコプラズマ病、ティザー病						
第5回	野生動物の代表的な感染症	人に対する人獣共通感染症の感染源、感染巣						
第6回	予防ワクチン①	犬と猫のワクチンの種類、コアワクチンとノンコアワクチン	P116~123					
第7回	予防ワクチン②	接種プログラム、WSAVAワクチネーションプログラム、副反応	P116~123					
第8回	免疫①	免疫とはなにか、免疫応答、自然免疫と獲得免疫	P41~42					
第9回	免疫②	抗体産生、抗体の移行、自己免疫疾患	P42~47					
第10回	アレルギー	アレルギーとはなにか、アレルギーの種類	P44~47					
第11回	衛生管理	微生物制御と感染症対策 海外からの侵入防止対策、国内における防疫対策	P140~141					
第12回	消毒と滅菌 小動物の消毒と滅菌	消毒と滅菌の定義、目的、方法、注意点 滅菌法と消毒薬	P136~139					
第13回	産業動物の消毒と滅菌	外部からの病原微生物の侵入・持ち込み防止、 外部への病原微生物の排出阻止						
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける		※学生証が必要				
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	蛭多			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物看護学概論Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護の目的、概念を理解する。</li> <li>獣医療と動物看護の歴史を理解する。</li> <li>獣医療倫理、動物看護師の倫理綱領を理解する。</li> <li>動物にとっての健康、福祉、QOLを理解する。</li> <li>獣医療施設における動物看護師の役割について理解する。</li> <li>地域動物保健における動物看護師の役割について理解する。</li> <li>社会における獣医療施設の役割について理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する。</li> <li>インフォームド・コンセント、守秘義務について理解する。</li> <li>診療録と動物看護記録の作成、保存義務について理解する。</li> <li>職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する。</li> <li>動物看護師の職能団体について理解する。</li> <li>動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する。</li> <li>動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する。</li> <li>国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する。</li> </ul>					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物看護師の職業倫理について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	獣医療の歴史	家畜化と獣医療、日本の獣医療の歴史				P67～69		
第2回	動物看護と資格化の軌跡	日本の動物看護の歴史、国際的な違い				P69～73		
第3回	動物看護学総論①<<グループワーク>>	動物看護を学びはじめるにあたって				P4～7		
第4回	動物看護学総論②	動物看護とは何か(動物看護の基本となるもの、「看護」の歴史と定義)				P4～7		
第5回	動物看護学総論③	動物看護とは何か(動物看護の対象と目的)				P7～10		
第6回	動物看護師の需要と必要性①<<グループワーク>>	動物看護師に求められる視点と能力				P10		
第7回	動物看護師の需要と必要性①<<グループワーク:発表>>	動物看護師に求められる視点と能力				P10		
第8回	動物看護師の需要と必要性②<<グループワーク>>	診療における動物看護師の役割				P10～11		
第9回	動物看護師の需要と必要性②<<グループワーク:発表>>	診療における動物看護師の役割				P10～11		
第10回	動物看護者の業務指針①	内容を考え、自身の生活・今後に落とし込むことができる				P20～22		
第11回	動物看護者の業務指針②	内容を考え、自身の生活・今後に落とし込むことができる				P20～22		
第12回	動物看護師の需要と必要性③<<グループワーク>>	動物看護師として必要な知識				P11～12		
第13回	動物看護師の需要と必要性③<<グループワーク:発表>>	動物看護師として必要な知識				P11～12		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	白崎		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物看護学概論Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護の目的、概念を理解する。</li> <li>獣医療と動物看護の歴史を理解する。</li> <li>獣医療倫理、動物看護師の倫理綱領を理解する。</li> <li>動物にとっての健康、福祉、QOLを理解する。</li> <li>獣医療施設における動物看護師の役割について理解する。</li> <li>地域動物保健における動物看護師の役割について理解する。</li> <li>社会における獣医療施設の役割について理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する。</li> <li>インフォームド・コンセント、守秘義務について理解する。</li> <li>診療録と動物看護記録の作成、保存義務について理解する。</li> <li>職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する。</li> <li>動物看護師の職能団体について理解する。</li> <li>動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する。</li> <li>動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する。</li> <li>国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する。</li> </ul>					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト：ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」 参考書：							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物看護師の倫理規定について、各条項をそれぞれ説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物看護師の倫理	「動物看護師の倫理綱領」について考える。、前文				P13~14		
第2回	《動物看護師の倫理綱領》1条・2条	1条・2条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P14~15		
第3回	《動物看護師の倫理綱領》3条・4条	3条・4条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P15~16		
第4回	《動物看護師の倫理綱領》5条・6条	5条・6条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P16~17		
第5回	《動物看護師の倫理綱領》7条・8条	7条・8条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P17~18		
第6回	《動物看護師の倫理綱領》9条・10条	9条・10条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P18		
第7回	《動物看護師の倫理綱領》11条・12条	11条・12条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P18~19		
第8回	《動物看護師の倫理綱領》13条・14条	13条・14条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P19		
第9回	《動物看護師の倫理綱領》15条	15条について条文を読み、自身がどう関わることができるかを考える				P20		
第10回	《動物看護師の倫理綱領》まとめ《グループワーク》	動物看護師の倫理綱領の内容を自身の生活・今後に落とし込むことができる				P13~20		
第11回	《動物看護師の倫理綱領》まとめ《グループワーク：発表》	動物看護師の倫理綱領の内容を自身の生活・今後に落とし込むことができる				P13~20		
第12回	インフォームド・コンセントとは	インフォームド・コンセントとは何か				P43~44		
第13回	インフォームド・コンセント《グループワーク》	動物看護師視点の“インフォームド・コンセント”				P43~44		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	白崎		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物医療関連法規	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物や獣医療に関連するさまざまな法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>法の体系について理解する。</li> <li>獣医療に関連する法規と動物看護師の関わりについて理解する。</li> <li>獣医師法について、概要を理解する。</li> <li>獣医療法について、概要を理解する。</li> <li>家畜伝染病予防法について、概要を理解する。</li> <li>愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律について、概要を理解する。</li> <li>感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律について、概要を理解する。</li> <li>狂犬病予防法について、概要を理解する。</li> <li>身体障害者補助犬法について、概要を理解する。</li> <li>薬機法について、概要を理解する。</li> <li>麻薬及び向精神薬取締法について、概要を理解する。</li> <li>毒物及び劇物取締法について、概要を理解する。</li> <li>動物の愛護及び管理に関する法律について、概要を理解する。</li> <li>特定外来生物による生態系などに係る被害の防止に関する法律について、概要を理解する。</li> <li>絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約について、概要を理解する。</li> <li>絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律について、概要を理解する。</li> <li>鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律について、概要を理解する。</li> <li>特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約について、概要を理解する。</li> <li>廃棄物の処理及び清掃に関する法律について、概要を理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第1巻 人と動物の関係(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物関係の法律について説明ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容	備考					
第1回	動物医療関連法規とは	法令の種類、政令と省令、条例と規則、まとめ	P73~74					
第2回	獣医事行政法規(獣医師法と獣医療法)	法律の概念。重要な条項	P75~80					
第3回	家畜衛生行政法規① (家畜伝染病予防法、家畜保健衛生所法)	法律の概念。重要な条項	P78~80					
第4回	家畜衛生行政法規② (飼料の安全性の確保及び品質改善に関する法律、ペットフード安全法)	法律の概念。重要な条項	P87~90					
第5回	公衆衛生行政法規① (感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律)	法律の概念。重要な条項	P91~97					
第6回	公衆衛生行政法規②(狂犬病予防法)	法律の概念。重要な条項	P97~101					
第7回	公衆衛生行政法規③(と畜場法、化製場等に関する法律、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律)	法律の概念。重要な条項	P101~105					
第8回	公衆衛生行政法規④(身体障害者補助犬法)	法律の概念。重要な条項	P109~112					
第9回	環境行政法規①(動物の愛護及び管理に関する法律①)	法律の概念。重要な条項	P113~126					
第10回	環境行政法規②(動物の愛護及び管理に関する法律②)	法律の概念。重要な条項	P113~126					
第11回	環境行政法規③(ワシントン条約とラムサール条約、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律)	法律の概念。重要な条項	P126~133					
第12回	環境行政法規④(特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律、生物多様性基本法)	法律の概念。重要な条項	P133~138					
第13回	環境行政法規⑤(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)その他の関連法律(医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律)等	法律の概念。重要な条項 その他、社会人として知っておく必要のある法律	P138~154					
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要					
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	藤本		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				



2019年度 シラバス

科目名	公衆衛生学 I	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・獣医療における公衆衛生の概要を捉え、One Healthなど用語の意味を簡単に説明できる。</li> <li>・疫学と疾病予防を学び、感染成立の要因を図示説明できる。</li> <li>・環境衛生と食品衛生を学び、HACCPなどの用語説明ができる。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版3巻」、インターズー出版「動物公衆衛生学」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 公衆衛生学各種用語について簡単に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
環境学や社会科分野で既に学習した内容を、獣医学的視点から深く追求する座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	公衆衛生学総論	公衆衛生の定義、公衆衛生における獣医療の役割			P126. 127			
第2回	獣医療と公衆衛生	公衆衛生を学ぶ意義、公衆衛生分野における獣医師の役割、公衆衛生の考え方と国民衛生の動向、獣医療における衛生の動向			インターズー出版「動物公衆衛生学」P3~15			
第3回	食品衛生	食品衛生法、食品とアレルギー			インターズー出版「動物公衆衛生学」P115~119、126~127			
第4回		食中毒とは			インターズー出版「動物公衆衛生学」P119~126			
第5回	予防衛生	食品の保存方法			インターズー出版「動物公衆衛生学」P127~129			
第6回		食品由来の健康危害防止策			インターズー出版「動物公衆衛生学」P129~13			
第7回	環境衛生とは	概論			インターズー出版「動物公衆衛生学」P137. 138			
第8回	水の衛生	上下水道、水質汚濁、水系感染症			インターズー出版「動物公衆衛生学」P139~147			
第9回	大気の衛生	空気、体温調節、大気汚染			インターズー出版「動物公衆衛生学」P147~149			
第10回	地球規模の環境問題	各種環境問題の例、環境アセスメント			インターズー出版「動物公衆衛生学」P150~155			
第11回	生活環境問題	生活環境問題の例			インターズー出版「動物公衆衛生学」P155~159			
第12回	廃棄物問題	循環型社会の形成と廃棄物、感染性廃棄物、災害廃棄物			インターズー出版「動物公衆衛生学」P159~163			
第13回	衛生動物	衛生動物学			インターズー出版「動物公衆衛生学」P164~167			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	林			実務経験紹介			-	

2019年度 シラバス

科目名	公衆衛生学Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の成立について理解する。</li> <li>・疾病・健康障害の発生要因について理解する。</li> <li>・疫学調査法について理解する。</li> <li>・予防疫学について理解する。</li> <li>・人獣共通感染症とその対策について理解する。</li> <li>・狂犬病予防について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第3巻 動物の疾病と予防及び回復(第2版)」 参考書:ファームプレス出版「動物看護学全書04 [改訂版]動物看護のための小動物」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 主な人獣共通感染症の感染経路や予防方法を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	人獣共通感染症の定義 新興感染症と再興感染症	人獣共通感染症(伝染病)とは	第3巻:P128					
第2回	感染様式と予防対策	人獣共通感染症の感染様式と予防対策						
第3回	動物が関係する主な人獣共通感染症①	狂犬病とは(感染症法分類、感染経路、予防)						
第4回	動物が関係する主な人獣共通感染症②	ニューカッスル病、Bウイルス感染症、重症急性呼吸器感染症 (感染症法分類、感染経路、予防)						
第5回	動物が関係する主な人獣共通感染症③	腸管出血性大腸菌感染症、細菌性赤痢 (感染症法分類、感染経路、予防)						
第6回	動物が関係する主な人獣共通感染症④	日本紅斑熱、野兔病 (感染症法分類、感染経路、予防)						
第7回	動物が関係する主な人獣共通感染症⑤	Q熱、オウム病など (感染症法分類、感染経路、予防)						
第8回	動物が関係する主な人獣共通感染症⑥	ジアルジア症、アメーバ赤痢 (感染症法分類、感染経路、予防)						
第9回	動物が関係する主な人獣共通感染症⑦	エキノコックス症、幼虫移行症 (感染経路、予防)						
第10回	動物が関係する主な人獣共通感染症⑧	アニサキス症、マンソン裂頭条虫 (感染経路、予防)						
第11回	動物が関係する主な人獣共通感染症⑨	黄熱、デング熱、マラリア (感染経路、予防)						
第12回	一類感染症①	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ熱、痘そう						
第13回	一類感染症②	南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要					
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	林 弘之		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物福祉・倫理		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)およびその基礎となる生命倫理の考えかたについて学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命倫理の考え方について理解する。</li> <li>・生命倫理と獣医療の関わりについて理解する。</li> <li>・動物福祉の考え方について理解する。</li> <li>・「5つの自由」を理解する。</li> <li>・近代および現代の動物愛護運動について理解する。</li> <li>・「動物の権利」、「動物福祉」思想について理解する。</li> <li>・動物福祉に関する法と行政の仕組みの概要を理解する。</li> <li>・安楽死の考え方について理解する。</li> <li>・伴侶動物の適正飼育と福祉上の問題について理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物保護活動について現状と課題を理解する。</li> <li>・飼育放棄や殺処分問題、対策について理解する。</li> <li>・動物虐待の定義と現状、対策について理解する。</li> <li>・飼育動物の災害時の対応について理解する。</li> <li>・産業動物における福祉上の問題について理解する。</li> <li>・国際的な福祉基準について理解する。</li> <li>・産業動物の福祉を向上させるための具体的方法を理解する。</li> <li>・実験動物における福祉上の問題について理解する。</li> <li>・3Rの概念と具体的方法を理解する。</li> <li>・展示動物における福祉上の問題について理解する。</li> <li>・展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容を理解する。</li> </ul>					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第1巻 人と動物の関係(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物愛護や福祉について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	動物の愛護とは	動物福祉(アニマルウェルフェア)の概念、動物の権利との違い、				P30~33		
第2回	さまざまな動物観と影響要因①	西欧と日本における関わりりの歴史の変遷(古代~中世)				P34~38		
第3回	さまざまな動物観と影響要因②	西欧と日本における関わりりの歴史の変遷(近代)				P38~40		
第4回	日本の動物の愛護及び管理に関する法律	「動物の愛護及び管理に関する法律」の意味、目的、概要				P42~46		
第5回	動物病院における患者動物の福祉	獣医療における倫理、飼い主の指導、ペットロスへの対応、患者動物の福祉				P47~49		
第6回	動物病院における患者動物の福祉<<グループワーク>>	「動物病院における患者動物の福祉」についてグループで考える				-		
第7回	学校飼育動物の福祉	学校飼育動物とは、学校飼育動物の適切な管理、学校(教育委員会)と地域の獣医師・動物看護師との連携				P53~55		
第8回	産業動物の福祉	産業動物の福祉の歴史、諸外国における取り組み、日本の産業動物における福祉上の問題				P56~59		
第9回	実験動物の福祉	実験動物とは、動物実験の基本原則、実験動物の動物福祉に配慮した飼育管理、化粧品における動物実験廃止の世界的な流れ				P60~63		
第10回	安楽死	定義、事例				P25~26		
第11回	安楽死<<グループワーク>>	「安楽死」についてグループで考える				-		
第12回	生命倫理	意味、4原則(または6原則)、について知る				トム・L・ビーチャム ジェイムズ・F・チルドレス著「生命医学倫理」参照		
第13回	飼育動物の災害時の対応	同伴避難先での福祉にかなった環境や対応				環境省 「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	実務経験紹介			<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物行動学	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の行動学の4つの問いについて理解する。</li> <li>・生得的行動と学習行動について理解する。</li> <li>・脳による行動制御について理解する。</li> <li>・摂食および飲水行動について理解する。</li> <li>・排泄行動について理解する。</li> <li>・身づくろい行動について理解する。</li> <li>・護身行動について理解する。</li> <li>・発達ステージと各時期の行動学的特徴について理解する。</li> <li>・生殖行動について理解する。</li> <li>・コミュニケーション行動について理解する。</li> <li>・敵対行動と親和的行動について理解する。</li> <li>・行動形成について理解する。</li> <li>・馴化と感作について理解する。</li> <li>・古典的条件づけとオペラント条件付けについて理解する。</li> <li>・学習に影響を与える因子について理解する。</li> <li>・問題行動の定義と要因を理解する。</li> <li>・攻撃行動の種類、原因と治療法を理解する。</li> <li>・恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法を理解する。</li> <li>・不適切な排泄行動の原因と治療法を理解する。</li> <li>・高齢性認知機能低下の原因と症状、対応を理解する。</li> <li>・行動診療の進め方について理解する。</li> <li>・コンサルテーションの方法について理解する。</li> <li>・行動修正法と環境修正法の種類と適応を理解する。</li> <li>・行動治療における薬物療法を理解する。</li> <li>・問題行動予防のため、飼い主に指導すべき事項や方法を理解する。</li> <li>・子犬や子猫の社会化教室について、意義や方法を理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第4巻 動物の行動と健康管理(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 犬猫の種としての行動様式やライフステージにおける特徴を説明できる。 2. しつけやトレーニングの学習理論を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物行動学の基礎	行動学概論、行動学の歴史、動物の家畜化、行動の周期性			P2~5			
第2回	犬学・猫学	犬種の作出と歴史、犬種と行動変化、猫種の作出と歴史、猫の行動変化			P5~7			
第3回	行動の発現と機序	行動の動機付け、神経伝達物質			P8~11			
第4回	行動の発達と機能①	行動の発達。発達ステージ(新生子期、移行期)と特徴的な行動			P13~15			
第5回	行動の発達と機能②	行動の発達。社会化とは発達ステージ(社会化期、若年期、成熟期、高齢期)と特徴的な行動			P15~18			
第6回	犬と猫の維持行動	摂食行動、捕食行動、排泄行動、休息行動、グルーミング行動			P18~23			
第7回	犬と猫の性行動 犬と猫の社会行動①	犬の性行動、猫の性行動 視覚を利用したコミュニケーション			P23~P25			
第8回	犬と猫の社会行動②	聴覚を利用したコミュニケーション、嗅覚を利用したコミュニケーション、犬と猫の親和行動と攻撃行動			P25~28			
第9回	しつけ・トレーニングの理論と応用① -学習理論、しつけ・トレーニングの応用-	馴化と感作、古典的条件づけ、オペラント条件付け 反応形成、トイレトレーニング			P30~37			
第10回	しつけ・トレーニングの理論と応用② -学習理論、しつけ・トレーニングの応用-	クレートトレーニング、基本的なコマンドのトレーニング、 パピークラスとパピーパーティ、しつけ・トレーニングに利用する 道具			P37~44			
第11回	問題行動総論	定義、要因(遺伝的、生得的、環境)、修正と予防			P46~51			
第12回	問題行動各論①	犬の問題行動			P51~54			
第13回	問題行動各論②	猫の問題行動			P54~56			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	光野			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	伴侶動物 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的なエキゾチック動物の歴史と代表的な品種、その活用について理解する。</li> <li>代表的なエキゾチック動物の飼育管理法について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト：ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第4巻 動物の行動と健康管理(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書：							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. エキゾチックアニマルとは何かを説明することができる。 2. 各動物の特徴や飼育方法について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	エキゾチックアニマルとは ウサギの品種と特徴①	ウサギの生態について			第4巻：P102～115 実習テキスト：P59～62			
第2回	ウサギの品種と特徴②	ウサギの飼養管理・飼養施設 ウサギの主な疾病			第4巻：P102～115 実習テキスト：P59～62			
第3回	ウサギの品種と特徴③	ウサギの飼養管理・飼養施設 ウサギの主な疾病			第4巻：P102～115 実習テキスト：P59～62			
第4回	フェレットの特徴①	フェレットの生態について			第4巻：P116～125 実習テキスト：P64～66			
第5回	フェレットの特徴②	フェレットの飼養管理・飼養施設 フェレットの主な疾病			第4巻：P116～125 実習テキスト：P64～66			
第6回	モルモットの特徴①	モルモットの生態について			第4巻：P126～131			
第7回	モルモットの特徴②	モルモットの飼養管理・飼養施設 モルモットの主な疾病			第4巻：P126～131			
第8回	ハムスターの品種と特徴①	ハムスターの生態について			第4巻：P132～137 実習テキスト：P62～64			
第9回	ハムスターの品種と特徴②	ハムスターの飼養管理・飼養施設 ハムスターの主な疾病			第4巻：P132～137 実習テキスト：P62～64			
第10回	チンチラの特徴 ハリネズミの特徴	チンチラの生態について ハリネズミの生態について			-			
第11回	飼鳥の品種と特徴①	飼鳥の飼養管理・飼養施設			第4巻：P138～145 実習テキスト：P66～68			
第12回	飼鳥の品種と特徴②	繁殖・発情行動について			第4巻：P138～145			
第13回	飼鳥の品種と特徴③	飼鳥の主な疾病			第4巻：P138～145 実習テキスト：P66～68			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					20	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	伴侶動物Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬の歴史と代表的な品種、その活用について理解する。</li> <li>・犬の飼育管理法について理解する。</li> <li>・猫の歴史と代表的な品種、その活用について理解する。</li> <li>・猫の飼育管理法について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第4巻 動物の行動と健康管理(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 「最新犬種図鑑」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 犬の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。 2. 猫の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	F C I国際犬展見学会	校外授業 (出席・レポート提出にて評価)			2019.05.12(日)の分			
第2回								
第3回								
第4回	伴侶動物の定義 伴侶動物の種類と歴史(犬、猫、エキゾチックアニマル)				-			
第5回	犬の品種と特徴①	犬の歴史			第4巻:P76~78			
第6回	犬の品種と特徴②	犬の品種①(JKC第1G~第4G)			犬種図鑑:P19~105			
第7回	犬の品種と特徴③	犬の品種②(JKC第5G~第8G)			犬種図鑑:P107~166			
第8回	犬の品種と特徴④	犬の品種③(JKC第9G~第10G) 犬の飼育管理①(すまい)			犬種図鑑:P167~200 第4巻:P83~85 実習テキスト:P44~48			
第9回	犬の品種と特徴⑤	犬の飼育管理②(食事、健康管理)、日々の関わり			第4巻:P85~89 実習テキスト:P44~48			
第10回	猫の品種と特徴①	猫の歴史			第4巻:P91~92			
第11回	猫の品種と特徴②	猫の品種			第4巻:P92~94			
第12回	猫の品種と特徴③	猫の飼育管理①(すまい、食事)			第4巻:P94~98 実習テキスト:P49~52			
第13回	猫の品種と特徴④	猫の飼育管理②(健康管理)、日々の関わり			第4巻:P97~101 実習テキスト:P49~52			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前に行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物内科看護学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液などについて理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の内容・目的を理解する。</li> <li>基本的グルーミング・被毛の手入れの目的・方法を理解する。</li> <li>適切な飼育環境やストレスの緩和方法について理解する。</li> <li>診察における動物看護師の役割を理解する。</li> <li>診察室の準備、衛生管理について理解する。</li> <li>動物種ごとの適切な接し方を理解する。</li> <li>安全な散歩・運動の方法を理解する。</li> <li>保定の基本的な原理、目的、方法について理解する。</li> <li>身体検査・アセスメント項目について理解する。</li> <li>注射器の取り扱いおよび管理方法について理解する。</li> <li>採血の目的・方法について理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>採尿の目的・方法について理解する。</li> <li>穿刺・吸引について理解する。</li> <li>各種カテーテル挿入について理解する。</li> <li>薬の処方について理解する。</li> <li>内服薬の使用法について理解する。</li> <li>薬剤の注射法について理解する。</li> <li>外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する。</li> <li>輸液・輸血の適応とリスクについて理解する。</li> <li>各種輸液剤・各種輸血製剤の特性や適応について理解する。</li> <li>輸液中のモニタリングについて理解する。</li> <li>クロスマッチ試験と血液型について理解する。</li> <li>輸血に関わる手技について理解する。</li> <li>輸血による副反応を理解する。</li> </ul>					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 犬猫の健康管理について説明することができる。2. 内科診療の補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	犬と猫の健康とはなにか	一般的なケア				第5巻: P76		
第2回	一般的な管理 被毛や皮膚の管理	食事と飲み水の管理、寝る場所の管理 ブラッシング、シャンプー、歯磨き				第5巻: P76~78		
第3回	運動の管理 排泄の管理	運動の管理、排泄の管理				第5巻: P78~80		
第4回	病気の早期発見のための管理・定期的な健康診断	健常児と異常時のしぐさ・容態の違いを知る。 定期健康診断、動物看護師が行う健康チェック				第5巻: P77~79		
第5回	保定法①	保定とは、保定の目的、注意点				実習テキスト: P69~77		
第6回	保定法②	獣医学的な処置に適した保定、保定の種類				実習テキスト: P69~77、 P111~114		
第7回	バイタルサインとは何か。	バイタルサインとは、生きている証拠を確かめる				第5巻: P77~80		
第8回	バイタルチェックと体重測定。	体重測定、バイタルチェック				実習テキスト: P77~80		
第9回	輸液管理の基礎知識①	輸液の目的、輸液剤の種類、総輸液量、血管留置とは				第5巻: P89~90 実習テキスト: P82~91		
第10回	輸液管理の基礎知識②	輸液のルート、輸液に必要な器具機材等				第5巻: P90~96 実習テキスト: P82~91		
第11回	輸血の基礎知識 輸液・輸血中の動物の観察	輸血とは、輸血の種類、輸血の準備、 輸血の方法、輸血の速度、輸血時のモニター				第5巻: P97~100 実習テキスト: P92~97		
第12回	注射針、シリンジ等の取り扱いと基礎知識	針の種類、シリンジと延長チューブ				第5巻: P100 実習テキスト: P98~102		
第13回	薬の取り扱いと基礎知識	薬の種類と保管方法、調剤のための道具				第5巻: P100~102 実習テキスト: P115~119		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	高橋		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創傷の種類と治癒過程、管理方法を理解する。</li> <li>・ドレーンの装着、管理方法について理解する。</li> <li>・止血法について理解する。</li> <li>・骨折・脱臼の管理について理解する。</li> <li>・術前検査について理解する。</li> <li>・無菌の処置の重要性について理解する。</li> <li>・手術器具、手術衣、リネン類の準備・滅菌について理解する。</li> <li>・手術室お機器類、準備について理解する。</li> <li>・器械台の準備について理解する。</li> <li>・動物の適切なポジショニングについて理解する。</li> <li>・術野の消毒について理解する。</li> <li>・麻酔リスクの評価について理解する。</li> <li>・麻酔前投与について理解する。</li> <li>・注射麻酔・吸入麻酔について理解する。</li> <li>・導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する。</li> <li>・麻酔監視項目の監視方法、意義について理解する。</li> <li>・麻酔記録の作成法を理解する。</li> <li>・代表的な手術器具、縫合材、歯科器具の名称・分類、使用法を理解する。</li> <li>・直接補助、関節補助の内容について理解する。</li> <li>・麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する。</li> <li>・疼痛管理の意義・方法について理解する。</li> <li>・術創管理、包帯法について理解する。</li> <li>・退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。</li> <li>・エマーゼンシーの原因、病態について理解する。</li> <li>・一次救命処置と二次救命処置について理解する。</li> <li>・気管内挿管、心肺蘇生の方法について理解する。</li> <li>・理学療法の目的と意義について理解する。</li> <li>・代表的な理学療法の原理、手技について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」,インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物外科看護技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 外科診療補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	動物外科看護技術総論	外科診療時の補助に必要な技術			P2~5			
第2回	手術前の動物に必要な情報、飼い主に必要な指示	手術前動物の管理(術前管理)、術前評価 リネン類等の種類と準備			P7、P13~14 実習テキストP228~231			
第3回	滅菌と消毒	無菌操作の重要性、器具の管理			P14~16			
第4回	手術室の環境管理 手術施設、設備の準備と管理	手術室の準備、手術室の片付け			P16~20			
第5回	手術チーム・術者に必要な準備①	麻酔の導入、動物の準備(気管内挿管)、術中(外回り)			P21~26、P30 P62~66			
第6回	手術チーム・術者に必要な準備②	術者準備(手洗い・手指消毒、ガウン装着)			P26~29			
第7回	手術チーム・術者に必要な準備③	術者準備(手袋装着)			P26~29			
第8回	手術器具の準備と基礎知識①	1.メス・剪刀 2.鉗子			P45~50、P53			
第9回	手術器具の準備と基礎知識②	3.鑷子 4.縫合道具			P45~50、P53			
第10回	手術器具の準備と基礎知識③	5.その他の器具(タオル鉗子、開創器) 6.電気メス			P45~50、P53			
第11回	手術器具の準備と基礎知識④	8.歯科器具			実習テキスト:P241~243			
第12回	消耗品管理の重要性	縫合糸と縫合針、ドレープの種類			P50~53			
第13回	術前の動物管理と看護	麻酔前評価について			P54~55			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			



2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創傷の種類と治癒過程、管理方法を理解する。</li> <li>・ドレーンの装着、管理方法について理解する。</li> <li>・止血法について理解する。</li> <li>・骨折・脱臼の管理について理解する。</li> <li>・術前検査について理解する。</li> <li>・無菌的処置の重要性について理解する。</li> <li>・手術器具、手術衣、リネン類の準備・滅菌について理解する。</li> <li>・手術室お機器類、準備について理解する。</li> <li>・器械台の準備について理解する。</li> <li>・動物の適切なポジショニングについて理解する。</li> <li>・術野の消毒について理解する。</li> <li>・麻酔リスクの評価について理解する。</li> <li>・麻酔前投与について理解する。</li> <li>・注射麻酔・吸入麻酔について理解する。</li> <li>・導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する。</li> <li>・麻酔監視項目の監視方法、意義について理解する。</li> <li>・麻酔記録の作成法を理解する。</li> <li>・代表的な手術器具、縫合材、歯科器具の名称・分類、使用法を理解する。</li> <li>・直接補助、関節補助の内容について理解する。</li> <li>・麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する。</li> <li>・疼痛管理の意義・方法について理解する。</li> <li>・術創管理、包帯法について理解する。</li> <li>・退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。</li> <li>・エマーゼンシーの原因、病態について理解する。</li> <li>・一次救命処置と二次救命処置について理解する。</li> <li>・気管内挿管、心肺蘇生の方法について理解する。</li> <li>・理学療法の目的と意義について理解する。</li> <li>・代表的な理学療法の原理、手技について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 外科診療補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	手術チームの準備③	麻酔導入(麻酔前投与と麻酔薬)				P30~31		
第2回	手術チームの準備④	麻酔導入(麻酔前投与と麻酔薬)、麻酔記録				P30~31		
第3回	術中の動物管理と看護①	各モニターにおける正常と異常(a. 心電図)				P58~59		
第4回	術中の動物管理と看護②	各モニターにおける正常と異常 (b. 血圧 c. パルスオキシメーター d. カブノメーター)				P60~62		
第5回	術中の動物管理と看護③	各モニターにおける正常と異常(e. 体温) 五感を使った麻酔モニター						
第6回	覚醒補助 術後管理	覚醒とは、補助について 動物看護記録とは、術後の栄養管理				P31~33、P34~39		
第7回	痛みの管理	痛みの指標				P38~39		
第8回	衛生管理①	外傷・創傷管理 術層保護に必要な知識、創傷管理のための器材(ネット、カラー等)				P42~44		
第9回	衛生管理②	術層保護に必要な知識、創傷管理のための器材(ネット、カラー等)				P42~44		
第10回	理学療法の基礎知識①	リハビリテーションの中の運動療法としての理学療法①				P207~213		
第11回	理学療法の基礎知識②	リハビリテーションの中の運動療法としての理学療法②				P207~213		
第12回	救急救命処置①	生命徴候のアセスメント				※12/26、27 ‘ペットファーストエイド’講座にて		
第13回	救急救命処置②	救命方法の知識①				※12/26、27 ‘ペットファーストエイド’講座にて		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床看護学概論		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護過程の目的や意義、方法について理解する。</li> <li>・動物看護過程の各ステップについて理解する。</li> <li>・アセスメントについて理解する。</li> <li>・問題の明確化、動物看護計画の立案について理解する。</li> <li>・動物看護過程の実施、評価について理解する。</li> <li>・診療録(カルテ)の作成方法について理解する。</li> <li>・動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する。</li> <li>・ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する。</li> <li>・事故管理、防止システムについて理解する。</li> <li>・若齢動物・高齢動物の特徴について理解する。</li> <li>・認知障害について理解する。</li> <li>・ターミナルケアの目的と意義について理解する。</li> <li>・QOLやホスピス、緩和ケアについて理解する。</li> <li>・死亡した動物への対応、エンゼルケアについて理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物看護の基本的な考えについて説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物看護過程とは何か	動物看護の目的から動物看護過程へ、動物看護過程における5つの構成要素				P23~24		
第2回	動物看護過程の概要と展開①	アセスメント				P24~27		
第3回	動物看護過程の概要と展開②	動物看護診断				P27		
第4回	動物看護過程の概要と展開③	動物看護計画				P27~28		
第5回	動物看護過程の概要と展開④	動物看護の実践と動物看護記録				P28~30		
第6回	動物看護過程の概要と展開⑤	評価(動物看護評価)、動物看護過程を用いる利点				P31~32		
第7回	事例で考える動物看護過程の実際①<<グループワーク>>	事例を用いて、動物看護過程を考える				P59~66		
第8回	事例で考える動物看護過程の実際②<<グループワーク>>	事例を用いて考えた動物看護過程を発表する				P59~66		
第9回	ケアの標準化とは 事故管理、防止システムを考える。	ケアの標準化(クリティカルパス)について 事故管理、防止システムについて				-		
第10回	若齢動物の特徴	若齢動物の看護における特徴				-		
第11回	高齢動物の特徴と認知障害	高齢動物の看護における特徴 認知障害についてとその看護				-		
第12回	ターミナルケアとは	ターミナルケアとは何か ( (1) 動物の死期がわかったときの対応)				P44~45		
第13回	死の看取りへの関わり①	動物を亡くした飼い主への対応、病院で死亡した動物を返すまでの配慮				P45~49		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床栄養学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6大栄養素について理解する。</li> <li>・栄養要求の種差について理解する。</li> <li>・食性、嗜好性、摂食行動について理解する。</li> <li>・栄養素の不足、過剰症について理解する。</li> <li>・エネルギー要求量の意味と計算方法を理解する。</li> <li>・飼養標準について理解する。</li> <li>・ライフステージごとの栄養管理について理解する。</li> <li>・ペットフードの種類について理解する。</li> <li>・中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる。</li> <li>・栄養状態の評価法を理解する。</li> <li>・肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する。</li> <li>・さまざまな疾患時の食事療法について理解する。</li> <li>・療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる。</li> <li>・強制給餌の方法と注意点を理解する。</li> <li>・経管・静脈栄養法の種類と特徴、方法を理解する。</li> <li>・チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点を理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第6巻 動物看護の実践(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 5大栄養素とその代謝について説明することができる。 2. ライフステージや疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	動物栄養学総論①	6大栄養素 (1. タンパク質、2. 脂肪 (脂質))				P136~138		
第2回	動物栄養学総論②	6大栄養素 (3. 炭水化物、4. ビタミン、5. ミネラル、6. 水)				P138~139		
第3回	動物栄養学総論③/犬猫の必要栄養素の違い	過剰症と欠乏症/食性の違い				P139~140		
第4回	ペットフードの表記	ペットフード安全法で規定されている表記				P140~141		
第5回	ライフステージによる栄養管理①	犬のライフステージについて (成長期、維持期)				P141~144		
第6回	ライフステージによる栄養管理②	猫のライフステージについて (成長期、維持期) 犬と猫の加齢性変化				P145~147、P144、 P151~152		
第7回	ライフステージによる栄養管理③	繁殖期・妊娠期・授乳期の栄養管理				-		
第8回	B C S評価およびカロリー計算	B C Sとは/カロリー計算 (食物のカロリー・犬や猫のエネルギー要求量)				P147~P150		
第9回	肥満と消瘦 フードのタイプおよび給与回数、給与方法	肥満と消瘦とは フードのタイプ: 目的別の分類、給与回数、給与方法				P150~P151		
第10回	手作り食	嗜好性とは/ペットフードの適切な取扱い/手作り食				P178~P180		
第11回	療法食とは 疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患①)	食事療法食の表記と取扱い 下部尿路疾患とは/猫の特発性膀胱炎				P154~P155		
第12回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患②)	尿路結石について①				P155~P159		
第13回	疾患別による栄養特性 (下部尿路疾患③)	尿路結石について②				P155~P159		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤邊 厚太			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床検査学Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。							
授業の一般目標	・各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
実習を行うための座学学習								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物臨床検査学総論	臨床検査の種類と目的			第6巻：P68～71			
第2回	身体一般検査	アセスメント、検査を受ける動物の準備、検査所見の記録			第6巻：P69～70			
第3回	血液検査	実施手順、マイクロピペット			第6巻：P72～86 実習テキスト：P152～168			
第4回	尿検査	採尿法の種類、検体材料の適切な取り扱い法、一般検査、尿検査試験紙、科学的検査、尿沈渣			第6巻：P95～101 実習テキスト：P170～173			
第5回	糞便検査	糞便の一般性状、顕微鏡検査、検査法の種類			第6巻：P102～103 実習テキスト：P176～182			
第6回	細胞診	病理検査における細胞診の意味、検体の採材部位、標本作成手順、検体処理法と注意点、固定と染色法、必要な器具			インターズー出版「動物臨床検査学」P58～66 実習テキスト：P183			
第7回	心電図検査	心電図の原理、刺激伝導系、心電図検査手順と準備、ポジショニングと保定、記録と解析内容の意味			第6巻：P107～110 実習テキスト：P209～212			
第8回	X線検査	装置の基本原理、散乱線と防護、X線検査に関わる人の安全と防護の重要性、撮影条件の設定と準備、ポジショニングと保定、暗室での作業、現像手順とフィルム管理、廃液処理、CRシステム			第6巻：P111～122 実習テキスト：P194～200			
第9回	超音波検査	超音波診断装置の基本原理、プローブの種類と取り扱いの注意、検査法の手順、準備と補助			第6巻：P123～126 実習テキスト：P203～205			
第10回	内視鏡検査、CT、MRI、PET検査	基本的知識			第6巻：P184～190 実習テキスト：P218～220			
第11回	神経学的検査	観察検査をする意味と、結果でわかることを知る						
第12回	皮膚および外耳道検査	観察、くし検査、ウェットペーパー検査、皮膚搔把検査、スタンピング検査、直接塗抹法、培養検査(真菌・細菌)、必要な器材の準備と補助			第6巻：P271～279、P287～290 実習テキスト：P214～217			
第13回	眼科検査	観察、視覚検査、シルマー涙液試験、フルオレセイン染色、眼圧検査、検眼鏡検査、スリットランプ検査、眼底検査			第6巻：P293～298 実習テキスト：P220～222			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	高橋		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床検査学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。							
授業の一般目標	・各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
実習を行うための座学学習								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物臨床検査学総論	臨床検査の種類と目的			第6巻：P68～71			
第2回	身体一般検査	アセスメント、検査を受ける動物の準備、検査所見の記録			第6巻：P69～70			
第3回	血液検査	実施手順、マイクロピペット			第6巻：P72～86 実習テキスト：P152～168			
第4回	尿検査	採尿法の種類、検体材料の適切な取り扱い法、一般検査、尿検査試験紙、科学的検査、尿沈渣			第6巻：P95～101 実習テキスト：P170～173			
第5回	糞便検査	糞便の一般性状、顕微鏡検査、検査法の種類			第6巻：P102～103 実習テキスト：P176～182			
第6回	細胞診	病理検査における細胞診の意味、検体の採材部位、標本作成手順 検体処理法と注意点、固定と染色法、必要な器具			インターズー出版「動物臨床検査学」P58～66 実習テキスト：P183			
第7回	心電図検査	心電図の原理、刺激伝導系、心電図検査手順と準備、ポジショニングと保定、記録と解析内容の意味			第6巻：P107～110 実習テキスト：P209～212			
第8回	X線検査	装置の基本原理、散乱線と防護、X線検査に関わる人の安全と防護の重要性、撮影条件の設定と準備、ポジショニングと保定、暗室での作業、現像手順とフィルム管理、廃液処理、CRシステム			第6巻：P111～122 実習テキスト：P194～200			
第9回	超音波検査	超音波診断装置の基本原理、プローブの種類と取り扱いの注意、検査法の手順、準備と補助			第6巻：P123～126 実習テキスト：P203～205			
第10回	内視鏡検査、CT、MRI、PET検査	基本的知識			第6巻：P184～190 実習テキスト：P218～220			
第11回	神経学的検査	観察 検査をする意味と、結果でわかることを知る						
第12回	皮膚および外耳道検査	観察、くし検査、ウェットペーパー検査、皮膚搔搔検査、スタンピング検査、直接塗抹法、培養検査(真菌・細菌)、必要な器材の準備と補助			第6巻：P271～279、P287～290 実習テキスト：P214～217			
第13回	眼科検査	観察、視覚検査、シルマー涙液試験、フルオレセイン染色、眼圧検査、検眼鏡検査、スリットランプ検査、眼底検査			第6巻：P293～298 実習テキスト：P220～222			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	高橋		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物医療コミュニケーション		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正飼育について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる。</li> <li>・病気の適切な予防法を理解する。</li> <li>・飼い主教育を主体としたインフォームド・コンセントを理解する。</li> <li>・チーム医療に関するコミュニケーション技能を理解する。</li> <li>・受付業務について理解する。</li> <li>・安楽死の意義と飼い主への説明について理解する。</li> <li>・ペットロスの定義と飼い主の心情に基づいた対処法を理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物の健康管理について飼い主向けに説明できる。 2. 院内におけるコミュニケーションの重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	クライアントエデュケーション概論 クライアントサービス	クライアントエデュケーションとは クライアントが求める8つの条件			P136~139			
第2回	家庭で行われる健康管理と医療現場で行われる健康管理 飼い主のニーズを知る。	指導方法、説明方法 指導時のポイント			P139~141			
第3回	説明の事例案①	狂犬病予防接種			P141~142			
第4回	説明の事例案②	犬の混合ワクチン接種 猫の混合ワクチン接種			P143~145			
第5回	説明の事例案③	フィラリア予防			P146~147			
第6回	説明の事例案④	ノミ・マダニ予防			P147~149			
第7回	説明の事例案⑤	避妊・去勢手術について デンタルケアの知識			P149			
第8回	説明の事例案⑥	減量指導 その他			-			
第9回	接遇とホスピタリティ《グループワーク》	ホスピタリティとは			-			
第10回	社会人コミュニケーション能力の基礎	コミュニケーションとは			P35~38 P151~153			
第11回	診察室でのコミュニケーション 受付でのコミュニケーション	清算業務、クレーム対応			P153~157			
第12回	院内スタッフ教育指導	スタッフコミュニケーション 院内マネジメント			P157~162、164~167			
第13回	グリーフケア	看取り、お別れ、お見送り、ペットロスのこと			P168~173			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物形態機能学実習		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器の名称と構造、機能を理解し暗記する</li> <li>・内臓器官の配置をイメージできる</li> <li>・顕微鏡を正しく取り扱うことができる</li> <li>・組織像を観察し、スケッチができる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	動物看護実習テキスト第2版、学窓社出版「犬の解剖カラーリングアトラス」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
骨格標本や模型を用いながらの実習授業および各種専門分野の企業連携授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物形態機能学実習概論	動物形態機能学実習で学ぶべきことは何か、何のために学ぶのかを知る				P11、12		
第2回	骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	骨格の形態と機能				P12～26		
第3回		筋肉の形態と機能						
第4回		各部位・臓器の位置や関係性						
第5回	主要臓器の組織像観察	筋				P27～34		
第6回		内臓						
第7回	顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み				P35～41		
第8回		正しい操作とメンテナンス法						
第9回	各種専門分野の企業連携授業	形態機能学：爬虫類				野生動物学専門講師による特別授業		
第10回		形態機能学：両生類				野生動物学専門講師による特別授業		
第11回		形態機能学：魚類				野生動物学専門講師による特別授業		
第12回		形態機能学：眼科分野				製薬企業による特別授業		
第13回		形態機能学：デンタルケア、皮膚系				製薬企業による特別授業		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	田中		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物形態機能学実習		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動器の名称と構造、機能を理解し暗記する</li> <li>・内臓器官の配置をイメージできる</li> <li>・顕微鏡を正しく取り扱うことができる</li> <li>・組織像を観察し、スケッチができる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	動物看護実習テキスト第2版、学窓社出版「犬の解剖カラーリングアトラス」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
骨格標本や模型を用いながらの実習授業および各種専門分野の企業連携授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	解剖実習	眼球				学窓社出版 「犬の解剖カラーリングアトラス」		
第2回		肺、腎臓、心臓他				学窓社出版 「犬の解剖カラーリングアトラス」		
第3回	スケッチ実習	骨と筋肉				学窓社出版 「犬の解剖カラーリングアトラス」		
第4回		筋肉の停止部・起始部				学窓社出版 「犬の解剖カラーリングアトラス」		
第5回	各種専門分野の企業連携授業	(計画中)						
第6回		(計画中)						
第7回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要		
第8回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	田中		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				



2019年度 シラバス

科目名	動物内科看護学実習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物種に応じた安全なハンドリングができる。</li> <li>動物を安全に散歩・運動させることができる。</li> <li>基本的なグルーミングを実施できる。</li> <li>全体状態を評価できる。</li> <li>バイタルサインを評価できる。</li> <li>基本的な保定を実施することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる。</li> <li>採血・採尿の手順を修得する。</li> <li>薬剤の取り扱い、経口投与・注射の手順を修得する。</li> <li>留置針設置の手順を修得し、準備および補助ができる。</li> <li>輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる。</li> <li>輸液・輸血中の動物を管理できる。</li> </ul>					
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」,インターズー出版「動物看護実習テキスト」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	実習に参加する動物の健康状態の観察と把握					第5巻:P76		
第2回	被毛や皮膚の管理と実践	ブラッシング、歯磨き等				第5巻:P76~78		
第3回	運動の管理と実践 排泄の管理と実践	散歩、個体に適した運動量の算出、安全な歩かせ方、歩行異常の見極めなど 衛生的な排泄、排泄による健康管理(異常の早期発見, におい, 便の状態観察)				第5巻:P78~80		
第4回	病気の早期発見のための管理・定期的な健康診断の実践	健常時と異常時のしぐさ・容態の違いを知る。 体重測定、検尿、検便、血液検査、必要に応じて継続的な検査				検査系 詳しくは検査学で行う。 第5巻:P77~79		
第5回	保定法<<実践>>①	保定とは、保定の目的、注意点				実習テキスト:P69~77		
第6回	保定法<<実践>>②	獣医学的な処置に適した保定、保定の種類				実習テキスト:P69~77、 P111~114		
第7回	保定法<<実践>>③	獣医学的な処置に適した保定、保定の種類				実習テキスト:P69~77、 P111~114		
第8回	バイタルチェックと体重測定方法の確認と実践①	体重測定、バイタルチェック				実習テキスト:P77~80		
第9回	バイタルチェックと体重測定方法の確認と実践②	体重測定、バイタルチェック				実習テキスト:P77~80		
第10回	輸液管理①	輸液準備(輸液ラインに必要な機材準備、留置針設置)				実習テキスト:P111~114		
第11回	輸液管理②	輸液準備(輸液ラインの接続)				第5巻:P90~96 実習テキスト:P82~91		
第12回	注射針、シリンジ等の取り扱い	注射器の取り扱い				実習テキスト:P98~102		
第13回	薬の取り扱い	調剤のための道具の使用方法(計量、分包、錠剤(分割と粉砕))				実習テキスト:P117~119		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品			○	○			10	不可(E):59点以下
演習			○	○			10	
出席			○				10	
担当教員	高橋		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床検査学実習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる</li> <li>各種検査手技を実践し、一連の検査業務を1人でできる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物臨床検査学 I で学んだことを踏まえた実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	動物臨床検査学総論	臨床検査の種類と目的			第6巻：P68～71			
第2回	身体一般検査	アセスメント、検査を受ける動物の準備、検査所見の記録			第6巻：P69～70			
第3回	血液検査	CBC、保定、血液凝固剤、塗抹、染色法、ヘマトクリット管、遠心分離機、生化学検査、クロスマッチ			第6巻：P72～86 実習テキスト：P152～168			
第4回	尿検査	採尿法による保定と必要な器材の準備、検体の適切な取り扱い法と保存、一般検査、尿検査試験、科学的検査、尿沈渣を顕微鏡で観察			第6巻：P95～101 実習テキスト：P170～173			
第5回	糞便検査	糞便の一般性状、採便法と保存法、検体の衛生的取扱い、顕微鏡検査			第6巻：P102～103 実習テキスト：P176～182			
第6回	細胞診	必要な器具の準備、検体の採材場所を知り採取法を観る、検体処理法と注意点、標本作成手順に従った固定と染色法			インターズー出版「動物臨床検査学」P58～66 実習テキスト：P183			
第7回	心電図検査	心電図検査手順と準備、ポジショニングと保定、記録と解析内容の意味			第6巻：P107～110 実習テキスト：P209～212			
第8回	X線検査	防護に必要な器材と着脱、撮影条件の設定と準備、ポジショニングと保定、暗室での作業、現像手順とフィルム管理、廃液処理、CRシステム			第6巻：P111～122 実習テキスト：P194～200			
第9回	超音波検査	超音波検査のしくみ、検査手順と検査前動物の準備、プローブの種類と取り扱いの注意、検査法の手順と補助、機器の準備と使用後管理			第6巻：P123～126 実習テキスト：P203～205			
第10回	神経学的検査	観察 検査をする意味と、結果でわかることを知る			第6巻：P184～190 実習テキスト：P218～220			
第11回								
第12回	皮膚および外耳道検査	観察、くし検査、ウェットペーパー検査、皮膚搔把検査、スタンブ検査、直接塗抹法、培養検査(真菌・細菌)、必要な器材の準備と補助			第6巻：P271～279、P287～290 実習テキスト：P214～217			
第13回	眼科検査	観察、視覚検査、シルマー涙液試験、フルオレセイン染色、眼圧検査、検眼鏡検査、スリットランプ検査、眼底検査			第6巻：P293～298 実習テキスト：P220～222			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト							-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	高橋			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる</li> <li>各種検査手技を実践し、一連の検査業務を1人でできる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物臨床検査学Ⅱで学んだことを踏まえた実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物臨床検査学総論	臨床検査の種類と目的				第6巻：P68～71		
第2回	身体一般検査	アセスメント、検査を受ける動物の準備、検査所見の記録				第6巻：P69～70		
第3回	血液検査	CBC、保定、血液凝固剤、塗抹、染色法、ヘマトクリット管、遠心分離機、生化学検査、クロスマッチ				第6巻：P72～86 実習テキスト：P152～168		
第4回	尿検査	採尿法による保定と必要な器材の準備、検体の適切な取り扱い法と保存、一般検査、尿検査試験、科学的検査、尿沈渣を顕微鏡で観察				第6巻：P95～101 実習テキスト：P170～173		
第5回	糞便検査	糞便の一般性状、採便法と保存法、検体の衛生的取扱い、顕微鏡検査				第6巻：P102～103 実習テキスト：P176～182		
第6回	細胞診	必要な器具の準備、検体の採材場所を知り採取法を観る、検体処理法と注意点、標準作成手順に従った固定と染色法				インターズー出版「動物臨床検査学」P58～66 実習テキスト：P183		
第7回	心電図検査	心電図検査手順と準備、ポジショニングと保定、記録と解析内容の意味				第6巻：P107～110 実習テキスト：P209～212		
第8回	X線検査	防護に必要な機材と着脱、撮影条件の設定と準備、ポジショニングと保定、暗室での作業、現像手順とフィルム管理、廃液処理、CRシステム				第6巻：P111～122 実習テキスト：P194～200		
第9回	超音波検査	超音波検査のしくみ、検査手順と検査前動物の準備、プローブの種類と取り扱いの注意、検査法の手順と補助、機器の準備と使用後管理				第6巻：P123～126 実習テキスト：P203～205		
第10回	神経学的検査	観察 検査をする意味と、結果でわかることを知る				第6巻：P184～190 実習テキスト：P218～220		
第11回								
第12回	皮膚および外耳道検査	観察、くし検査、ウェットペーパー検査、皮膚搔把検査、スタンピング検査、直接塗抹法、培養検査(真菌・細菌)、必要な器材の準備と補助				第6巻：P271～279、P287～290 実習テキスト：P214～217		
第13回	眼科検査	観察、視覚検査、シルマー涙液試験、フルオレセイン染色、眼圧検査、検眼鏡検査、スリットランプ検査、眼底検査				第6巻：P293～298 実習テキスト：P220～222		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト							-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	高橋		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床検査学実習Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる</li> <li>各種検査手技を実践し、一連の検査業務を1人でできる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物臨床検査学Ⅲで学んだことを踏まえた実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物臨床検査学総論	臨床検査の種類と目的			第6巻：P68～71			
第2回	身体一般検査	アセスメント、検査を受ける動物の準備、検査所見の記録			第6巻：P69～70			
第3回	血液検査	CBC、保定、血液凝固剤、塗抹、染色法、ヘマトクリット管、遠心分離機、生化学検査、クロスマッチ			第6巻：P72～86 実習テキスト：P152～168			
第4回	尿検査	採尿法による保定と必要な器材の準備、検体の適切な取り扱い法と保存、一般検査、尿検査試験、科学的検査、尿沈渣を顕微鏡で観察			第6巻：P95～101 実習テキスト：P170～173			
第5回	糞便検査	糞便の一般性状、採便法と保存法、検体の衛生的取扱い、顕微鏡			第6巻：P102～103 実習テキスト：P176～182			
第6回	細胞診	必要な器具の準備、検体の採材場所を知り採取法を観る、検体処理法と注意点、標本作成手順に従った固定と染色法			インターズー出版「動物臨床検査学」P58～66 実習テキスト：P183			
第7回	心電図検査	心電図検査手順と準備、ポジショニングと保定、記録と解析内容の意味			第6巻：P107～110 実習テキスト：P209～212			
第8回	X線検査	防護に必要な機材と着脱、撮影条件の設定と準備、ポジショニングと保定、暗室での作業、現像手順とフィルム管理、廃液処理、CRシステム			第6巻：P111～122 実習テキスト：P194～200			
第9回	超音波検査	超音波検査のしくみ、検査手順と検査前動物の準備、プローブの種類と取り扱いの注意、検査法の手順と補助、機器の準備と使用後管理			第6巻：P123～126 実習テキスト：P203～205			
第10回	神経学的検査	観察 検査をする意味と、結果でわかることを知る			第6巻：P184～190 実習テキスト：P218～220			
第11回								
第12回	皮膚および外耳道検査	観察、くし検査、ウェットペーパー検査、皮膚搔把検査、スタンブ検査、直接塗抹法、培養検査(真菌・細菌)、必要な器材の準備と補助			第6巻：P271～279、P287～290 実習テキスト：P214～217			
第13回	眼科検査	観察、視覚検査、シルマー涙液試験、フルオレセイン染色、眼圧検査、検眼鏡検査、スリットランプ検査、眼底検査			第6巻：P293～298 実習テキスト：P220～222			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	高橋		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術器具・リネン類の準備、滅菌ができる。</li> <li>・手術に必要な機器、器械台を準備できる。</li> <li>・手術台への動物の固定、術野の消毒ができる。</li> <li>・手洗い、手術衣や手袋の装着ができる。</li> <li>・麻酔器やモニター機器の接続、使用することができる。</li> <li>・麻酔記録をつけることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接補助・間接補助ができる。</li> <li>・歯科器具の取り扱いを理解し、歯科処置の補助ができる。</li> <li>・術後の創傷管理ができる。</li> <li>・動物に包帯を装着できる。</li> <li>・抜糸の補助ができる。</li> <li>・気管内挿管ができる。</li> <li>・心肺蘇生を補助できる。</li> </ul>							
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」,インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物外科看護技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	リネン類のたたみ方	手術衣・ドレープ類を準備し、滅菌することができる						
第2回	手術室準備・気管内挿管	手術室の準備を行うことができる 気管内挿管の準備・補助ができる						
第3回	手指消毒・ガウン装着①	手指消毒・手術着装着が正しくできる						
第4回	手指消毒・ガウン装着②							
第5回	手袋装着①	closed cuff methodで3分以内に手術手袋を装着できる						
第6回	手袋装着②							
第7回	各種器械使用方法	各種手術器械が正しく使うことができる						
第8回	手術器具準備・器具滅菌	手術器具の準備・滅菌ができる						
第9回	救急救命処置 I ③	救命方法の知識の実践①				※12/26, 27 'ペットファーストイイ'講座にて		
第10回	救急救命処置 I ④	救命方法の知識の実践②						
第11回	救急救命処置 I ⑤	救命方法の知識の実践③						
第12回	救急救命処置 I ⑥	救命方法の知識の実践④						
第13回	救急救命処置 I ⑦	救命方法の知識の実践⑤						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物看護総合実習Ⅰ	単位数	1	科目コード				
授業形態	体験型実習	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物病院の概要を理解する。 動物病院内の動物看護師の実際の業務や獣医師・動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラム、各教科と実際の業務との関連を知ること、必要性や目的を理解し意欲の向上を図る。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。</li> <li>・獣医師・看護師の業務内容を把握する。</li> <li>・動物病院の施設見学をし、施設の概況や機能を理解する。</li> <li>・動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。</li> <li>・学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。</li> <li>・学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入						
第2回	動物病院実習①	各自で選んだ動物病院へ実習（直行直帰）						
第3回								
第4回								
第5回								
第6回	動物病院実習②	各自で選んだ動物病院へ実習（直行直帰）						
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	動物病院実習③	各自で選んだ動物病院へ実習（直行直帰）						
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表						
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			50	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				40	
担当教員	クラス担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	キャリアデザイン I		単位数	1	科目コード	
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。					
授業の一般目標	一人ひとりが自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。					
受講条件	特になし					
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート・未来ノート					
授業の到達目標						
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点						
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べることができる。					
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 社会人として何が必要なのか考えることができる。					
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。					
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。					
授業計画(全体)						
専門学校は社会に出る前の最終学校という認識を持ち、学校生活2年間を社会人になるための準備期間として捉えることができる。また、人との関わり方や就職についてなどを個人ワークやグループワークでいろいろな意見を受け入れ、自身のキャリア延いては人生について考えることができるように授業を進めていく。						
授業計画(授業単位)						
回	主 題		授 業 内 容			備 考
第1回	社会人になるために		学校が社会の縮図であることを知り、今後の学校生活を社会人として行動できる			
第2回	主体性とは		主体性とは何かを知り、課外活動の目的を考える			
第3回	あいさつとは		社会人としてのあいさつ・返事を学ぶ			
第4回	報告・連絡・相談の重要性		社会人に必要な報告・連絡・相談について学ぶ			
第5回	報告・連絡・相談の仕方		報告・連絡・相談の使い分けや使うタイミングを学ぶ			
第6回	ポジティブシンキング		ポジティブな考え方とは			
第7回	コミュニケーション能力とは／動物病院体験型実習に向けて		コミュニケーションには自己理解と他者理解が必要であることを知る 動物病院体験型実習の実習先を考え始める			
第8回	自己理解と他者理解		自身と他人は違うということ再認識する			
第9回	企業研究 I (見学先調査)/面談		夏休みに行う「動物病院体験型実習」の実習先をリストアップする			
第10回	思いやりとは (動物看護師と思いやりの関係)		“思いやり”とは何かを考える			
第11回	8/24(土) ～ 8/28(水) 動物病院 体験型実 習 に向けて	電話のかけ方／尊敬語と謙譲語	電話でのアポイントメントの取り方を学ぶ。／敬語を再確認する			6/28～7/5に先方へTEL
第12回		履歴書・お礼状の書き方①	履歴書・お礼状の書き方を学び、実際に書いてみる			
第13回		履歴書・お礼状の書き方②	履歴書・お礼状の書き方を学び、実際に書いてみる			
第14回		動物病院体験型実習について (諸注意・所作)	動物病院体験型実習に向けての諸注意や所作を学ぶ			
第15回	動物病院体験型実習 振り返り		動物病院体験型実習を終え、感想等発表			
成績評価方法						
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他
定期試験						
小テスト						
宿題授業外レポート		○	○			20
授業態度			○	○		30
発表・作品				○	○	20
演習				○	○	20
出席			○			10
担当教員	田中／キャリアサポート室職員		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/		

2019年度 シラバス

科目名	キャリアデザインⅡ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動において実践的に活用できる内容を学ぶことができる。							
授業の一般目標	個人ワーク・チームワークを通して自分への洞察を深め、仕事全般についての理解を高めて、仕事選択ができるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート・未来ノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 社会人として何が必要なのか考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。							
授業計画(全体)								
キャリアデザインⅠで学んだ内容を踏まえ、自己分析や企業研究など、2年生から始まる就職活動を見据えた内容を進めていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	計画立案 (目標を達成するために/PDCAサイクルとは)	PDCAサイクルを知り、自身の目標と目標達成計画を立てることができる						
第2回	働くとは/就職活動の流れ	学生と社会人の違いをA再認識する						
第3回	自己分析Ⅰ	過去のライフイベントを通して、自分の人生に対する態度の根っこにあるものに気づき、自分らしさについて考える						
第4回	自己分析Ⅱ	職務適正テスト						
第5回	自己分析Ⅲ	自分の価値観に気づく						
第6回	自己分析Ⅳ	第4回にて行った職務適正テストのフィードバック 自身を他者に伝えることを意識し、自己イメージを言語化・明確化する						
第7回	自己分析Ⅴ	自己PR文を考える。						
第8回	生活設計・家計管理	「SMB Cコンシューマーファイナンス」特別授業 計画的な貯蓄・給与明細書の見方・お金のトラブルなどについて学ぶ						
第9回	求人票の見方	基本給・諸手当・保険など求人票に書かれている基本的な部分を学ぶ						
第10回	企業研究Ⅰ (理想の職場とは)	自身に合った職場を考える						
第11回	企業研究Ⅱ (キャリアマップ登録)	キャリアマップに登録し、使い方を学ぶ						
第12回	企業研究Ⅲ	自身に合った職場を見つける						
第13回	企業研究Ⅳ	第11回、第12回で見つけた企業を紹介する						
第14回	企業研究Ⅴ	就職に向けて、春休みをどう動かか考える						
第15回	面談・課題評価	第1回で作成した目標達成計画に基づき評価・面談						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		○	○				20	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			30	可 (D):69点~60点
発表・作品				○	○		20	不可(E):59点以下
演習				○	○		20	
出席			○				10	
担当教員	クラス担当教員、キャリアサポート室職員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			



2019年度 シラバス

科目名	ボランティア活動 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
授業の一般目標	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 今まで勉強してきた動物看護技術を用いてボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、ボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業概論 主体性とは？	この授業の意義・流れを理解し、今後の授業に臨むことができるようになる。「主体性」と「自主性」の違いを自分の言葉で説明できる						
第2回	動物関係の社会貢献	動物看護の知識を使ってできる社会貢献にどんなものがあるかを知る						
第3回	自分たちでできること	自分たちで、動物看護の知識を使ってできる社会貢献を考える						
第4回	京都動物愛護センター見学	京都動物愛護センター見学をしてボランティア活動とは何かを知る						
第5回								
第6回	京都市動物園見学	京都市動物園見学をして京都市動物園が行っている社会貢献とは何かを考える						
第7回								
第8回	グループワーク：マニュアル作成①	子猫の一時預りボランティアに参画する際に必要なマニュアルを考える						
第9回	グループワーク：マニュアル作成②							
第10回	グループワーク：マニュアル作成③							
第11回	グループワーク：活動前最終確認	子猫の一時預りボランティア開始前に決まったことの最終確認・全体共有						
第12回	グループワーク：活動中間報告①	子猫の一時預りボランティア開始1週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第13回	グループワーク：活動中間報告②	子猫の一時預りボランティア開始2週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第14回	グループワーク：活動中間報告③	子猫の一時預りボランティア開始3週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第15回	この授業を受けて	クラス全体で授業で学んだことを共有						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○	◎			70	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	クラス担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	損害保険学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ペット保険及び損害保険募集人に関連する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。							
授業の一般目標	アニコム損害保険に合格する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物の医療保険について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ペット保険講座	ペット保険」を扱うペットショップで働く際、あるいはペット保険加入者が多数来院する動物病院で働く際に役立つ「ペット保険（アニコム損保等）」の知識全般について学習します						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	損害保険募集人 一般試験対策講座	損害保険会社のペット保険を扱うペットショップ、動物病院等への就職に有利な資格で、「損害保険募集人試験」の合格を目指す						
第6回								
第7回								
第8回								
成績評価方法								
各項目では、理解力テストを行う。 単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 理解力テスト点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度							-	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○	○			20	
担当教員	アニコム担当者			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	イベントプロデュース		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。							
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら率先して活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業ガイダンス	2019年度のイベントについて						
第2回	イベントとは?	イベントの意義について						
第3回	イベントの目的	イベントには、必ず実施する側に明確な「目的」があって、その手段として行える						
第4回	プランニングと運営について	プランニング(計画生)の重要性和運営について覚える						
第5回	イベント企画会議(1)	実際の行事の企画会議を実施する(ほりかわ祭)						
第6回	イベント運営のグループワーク(1)	イベント運営とグループワーク(ほりかわ祭)						
第7回	具体的なイベント運営のシミュレーション(1)	運営シミュレーション(ほりかわ祭)						
第8回	イベント運営の実際(1)	ほりかわ祭について(1)						
第9回	イベントプロデュースの分析と展望(1)	ほりかわ祭について(2)						
第10回	イベント企画会議(2)	実際の行事の企画会議を実施する(就職egg)						
第11回	イベント運営のグループワーク(2)	イベント運営とグループワーク(就職egg)						
第12回	具体的なイベント運営のシミュレーション(2)	運営シミュレーション(就職egg)を行う						
第13回	イベント運営の実際(2)	就職eggについて(1)						
第14回	イベントプロデュースの分析と展望(2)	就職eggについて						
第15回	まとめ	まとめ						
成績評価方法								
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀(S):100点~90点
小テスト								優(A):89点~80点
宿題授業外レポート			○	○			40	良(B):79点~70点
授業態度			◎	◎			50	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎	◎			10	
担当教員	クラス担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	日本文化	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	季節の花を生け、生きてる花の表情を捉え、花の命の奥深さを学ぶ。伝統芸術に触れ感性を磨き、自己を知る。いけ花の実践、芸術表現、花の色彩、伝統行事、京の祭の花							
授業の一般目標	実際に花に触れ、草花の命を見つめ、表現する能力を養う。京の祭や伝統行事に触れ、日本文化や伝統芸術の根底にある豊かな感性、その心を知る。個人の表現を通して自己を知り、グループでの表現を通してチームワークを知る。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料を毎回配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 花の命を通じて、動物の命に寄り添うことの重みを感じ、動物看護師として生きていこうとする自分自身の心を見つめなおすことができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 教育に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 日常生活の中で教育問題について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	いけ花の誕生	花と人との関係を古代より現代までを知る						
第2回	いけ花の表現Ⅰ	花をながめ活かすことを知り、花を活ける						
第3回	花の色味	日本の伝統色彩から、花との深い関係を知る						
第4回	伝統行事の花	節句を通して、花との関わりを知る						
第5回	花の効用	薬用として植物の効用を知る						
第6回	いけ花の表現Ⅱ	花と花の調和を考え、花を活ける						
第7回	京の祭と花Ⅰ	京都の祭である葵祭に触れ、花との関わりについて知る						
第8回	いけ花の表現原理	いけ花は何を表現しているのか、型の原理を知り実践する						
第9回	いけ花の表現Ⅲ	広い空間に、花を生け飾り置くことを実践する						
第10回	京の祭と花Ⅱ	京都の祭である祇園祭に触れ、花との関わりについて知る						
第11回	いけ花の表現Ⅳ	花の型を知り、飾る場所に応じた花を活ける						
第12回	京の祭と花Ⅲ	京都の祭である時代祭に触れ、花との関わりについて知る						
第13回	花器との調和	花器と花との調和を意識し花を活ける、焼き物について学ぶ						
第14回	敷板との調和	敷板と花との調和を意識し花を活ける、漆について学ぶ						
第15回	いけ花の芸術性の表現	公の空間で展示する機会を設け、制作する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	小林			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	ビジネス文章力1	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義と実習	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	硬筆検定4級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。							
授業の一般目標	文字を書くにあたって心を整える。文字を書いて相手に伝えることはコミュニケーションの1つであることを知る。書写の基礎基本を自分のものとして定着する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ペン習字ハンドブック、4級合格のポイント							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 楷書、行書、草書それぞれの違いを知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場や日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、コミュニケーション能力向上のために努力ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
書写を中心とした授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	オリエンテーション	美しい文字を書く基本。用具テキスト、ドリルなど4級の概要説明						
第2回	硬筆ドリル・理論	文字・漢字の基本的な決まり						
第3回	硬筆ドリル・理論	文字のハネ、はらい、角度を学ぶ						
第4回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第5回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第6回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第7回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第8回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第9回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第10回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第11回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第12回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第13回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第14回	硬筆4級受験模擬	硬筆検定4級試験を想定した模擬試験						
第15回	硬筆5級受験模擬	硬筆検定4級試験を想定した模擬試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	上川			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	環境衛生学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護師は、動物の疾病予防の一環として院内清掃という仕事を行う。 本授業では、「鍛え磨く」という校訓の下、学生自身が自ら環境整備を行うことで、動物看護師としての清掃活動・整理整頓の重要性を考え、実施する習慣を身に付けることを目指す。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動の意義や目的を考えることができる。</li> <li>・整理整頓の意識や主体性、仕事のやり方・考え方に気づく習慣を身に付ける。</li> </ul>							
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	教科書：インターズー出版「動物看護実習テキスト 第2版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 使用教室の要・不要を明確にすることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自主的かつ主体的に清掃を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	環境衛生学概論《グループワーク》	環境衛生学とは 《グループワーク》社会人と環境整備						
第2回	身支度の心得	動物看護師としての身支度や手洗いについて考える				実習テキスト：P6~9		
第3回	環境整備①	使用教室の清掃方法を考え、実施する 実施した教室の点検と改善						
第4回	環境整備②	使用教室の清掃方法を考え、実施する 実施した教室の点検と改善						
第5回	環境整備③	使用教室の清掃方法を考え、実施する 実施した教室の点検と改善						
第6回	環境整備④	使用教室の清掃方法を考え、実施する 実施した教室の点検と改善						
第7回	環境整備⑤	使用教室の清掃方法を考え、実施する 実施した教室の点検と改善						
第8回	環境整備⑥	使用教室の清掃方法を考え、実施する 実施した教室の点検と改善						
第9回	環境整備⑦ 整理整頓①	使用教室清掃。点検と改善 整理整頓とは何かを考える						
第10回	環境整備⑧ 整理整頓②	使用教室清掃。点検と改善 整理整頓を行い、要・不要を考える						
第11回	環境整備⑨ 整理整頓③	使用教室清掃。点検と改善 整理整頓を行い、要・不要を考える						
第12回	環境整備⑩ 整理整頓④	使用教室清掃。点検と改善 整理整頓を行い、要・不要を考える						
第13回	環境整備⑪ 整理整頓⑤	使用教室清掃。点検と改善 整理整頓を行い、要・不要を考える						
第14回	環境整備⑫ 整理整頓⑥	使用教室清掃。点検と改善 整理整頓を行い、要・不要を考える						
第15回	環境整備⑬ 整理整頓⑦	使用教室清掃。点検と改善 整理整頓を行い、要・不要を考える						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				30	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	◎	◎			60	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	田中／北村		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	フィットネス	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	近年、若者の体力・運動能力が低下傾向にある。その結果として肥満や高血圧・高脂血症などの将来の生活習慣病につながるおそれがあり、また運動不足によって豊かな人間性や創造力・主体性といった社会人に必要な能力の低下等、様々な問題があると文部科学省も危惧している。この授業では基礎体力の向上や今までに経験した事のないニュースポーツを通して、運動の重要性を伝え、学生たちの『運動の習慣化』を計る。							
授業の一般目標	体を動かす重要性を理解し、運動を習慣づけることができる。							
受講条件	運動できる服装・外履き、上履き							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 筋力トレーニングを習慣づけることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 息が弾むほどの運動ができる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	この授業について	この授業の意義を理解し、体を動かす事の重要性を意識して今後の授業に取り組む事ができる						
第2回	ストレッチの重要性	ストレッチが何故必要なのかを理解して運動前には入念なストレッチを行う事ができる						
第3回	体力測定①	基礎的な運動能力を測定し、自身の運動能力を把握する						
第4回	ニュースポーツ①	ニュースポーツを行い、日頃することのない運動に興じる						
第5回	ニュースポーツ②	ニュースポーツを行い、日頃することのない運動に興じる						
第6回	ニュースポーツ③	ニュースポーツを行い、日頃することのない運動に興じる						
第7回	ニュースポーツ④	ニュースポーツを行い、日頃することのない運動に興じる						
第8回	体力測定②	基礎的な運動能力を測定し、自身の運動能力を把握する						
第9回	ボーリング大会	ペット総合専門学校全体ボーリング大会			11/6(水) ラウンドワン 京都河原町店にて			
第10回								
第11回	フィットネス①	より効果的に身体を動かし、体力を向上する						
第12回	フィットネス②	より効果的に身体を動かし、体力を向上する						
第13回	フィットネス③	より効果的に身体を動かし、体力を向上する						
第14回	フィットネス④ 体力測定④	基礎的な運動能力を測定し、自身の運動能力を把握する						
第15回	フィットネス⑤ 体力測定⑤	基礎的な運動能力を測定し、自身の運動能力を把握する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験			◎	○	◎		60	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物飼育実習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	伴侶動物学 I 学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認				講義		
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認						
第3回	協働で質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける						
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーションカを活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーションカを活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備					今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る		
第14回	試験準備							
第15回	期末試験 (発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う				※飼育は当番学生のみで行う。		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D): 69点~60点
発表・作品	○	○	○	○			40	不可 (E): 59点以下
演習			○	○	○		30	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			



2019年度 シラバス

科目名	アニマルヘルパー		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	独立開業を目指す場合やトリマー、、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテルなどの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。							
授業の一般目標	アニマルヘルパーが行うペット訪問サポートについて実践的に身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 生涯学習とは何かについて説明できる。2. 教育の各領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 教育に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 日常生活の中で教育問題について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	導入・インフォメーション	講座の目標、講座終了までの流れ、配布資料の確認						
第2回	犬の行動 ①	犬の発達過程、犬種特性、ボディランゲージ						
第3回	猫の行動 ①	猫の発達過程、ボディランゲージ、排泄や爪とぎなど猫特有の行動						
第4回	ヘルパー業務 (犬 ①)	犬のお世話をする際の注意事項や散歩や食事など依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第5回	ヘルパー業務 (犬 ②)							
第6回	ヘルパー業務 (猫 ①)	猫のお世話をする際の注意事項やトイレ掃除や遊びなど依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第7回	ヘルパー業務 (猫 ②)							
第8回	エキゾチックアニマル	一般的な小動物の具体的なお世話や注意事項						
第9回	要介護動物のケア ①	食事介護や排泄介護、運動介護など、特別に看護が必要な動物の対応						
第10回	要介護動物のケア ②							
第11回	訪問時の心肺蘇生術	訪問サービス時の心肺蘇生法のタイミングや具体的な方法						
第12回	修了試験	確認テスト						
成績評価方法								
単位認定 修了試験で総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			25	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				25	
担当教員	(一般社団法人)日本ペットサービス研究会			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物病理学	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。							
授業の一般目標	細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解し、簡単に図示説明できる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種病理学用語を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
正常を知ったうえで異常を学ぶ座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	動物病理学とは	1. 病理学の目的 2. 診断病理学 3. 病理組織標本の作製方法			P2~4			
第2回	生体反応と病気の成り立ち	1. 病気の原因 2. バイタルサイン			P5~6			
第3回	生体の回復力	1. 恒常性の維持と疾病 2. 身体の回復力に影響する因子			P7~10			
第4回	細胞や組織に生じる変化	1. 細胞傷害の過程 2. さまざまな細胞傷害因子			P11~12			
第5回		3. 傷害を受けた細胞の変化			P12~16			
第6回	増殖と修復	1. 細胞の増殖と組織の変化 2. 化生 3. 組織の修復と治癒			P18~22			
第7回	循環障害	1. 血液循環とリンパ液の循環 2. 水腫 3. 充血とうっ血 4. 出血と止血			P24~28			
第8回		5. その他の循環障害			P29~33			
第9回	炎症	1. 2. 3. 炎症の原因と役割、5大主徴、経過と治癒 4. 炎症に関わる細胞とケミカルメディエーター			P34~37			
第10回		5. 急性炎症の分類 6. 慢性炎症の種類と特徴			P37~40			
第11回	免疫異常	1. 免疫反応 2. 免疫応答の異常			P41~47			
第12回	腫瘍	1. 細胞の増殖分化とその異常 2. 腫瘍の定義と分類 3. 腫瘍の原因と発生メカニズム 4. 腫瘍の転移と進行			P48~52			
第13回	先天異常	1. 先天異常とは 2. 先天異常の原因			P53~58			
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける						
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定:総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺厚太		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物人間関係学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の飼育・利用の歴史について理解する。</li> <li>・文学・芸術における動物の表現について理解する。</li> <li>・欧米と日本の動物との関わりの相違について理解する。</li> <li>・動物の飼育と利用の現状について理解する。</li> <li>・動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響を理解する。</li> <li>・動物介在活動の目的と内容について理解する。</li> <li>・動物介在療法の内容について理解する。</li> <li>・動物介在教育の目的と内容について理解する。</li> <li>・使役動物の歴史と福祉について理解する。</li> <li>・補助犬の定義、歴史と現状を理解する。</li> <li>・補助犬の育成過程や適正について理解する。</li> <li>・補助犬の施設や社会の受け入れ体制について理解する。</li> <li>・その他の使役犬の種類と特徴および現状を理解する。</li> <li>・伴侶動物飼育の現状を理解する。</li> <li>・伴侶動物によって人間が受ける恩恵と問題点を理解する。</li> <li>・伴侶動物の適正飼育を推進するために必要な手段を理解する。</li> <li>・ペット産業の種類と内容について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第1巻 人と動物の関係(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野 人と動物の関係学」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. .AAA、AAT、AAEについて説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	人と動物の関係と歴史					P3～6		
第2回	人と動物の関係のなりたち①	家畜化、人と犬の関係				P7～8		
第3回	人と動物の関係のなりたち②	人と猫の関係、人とウマの関係、人と伴侶動物の新たな関係				P8～10		
第4回	人と動物の絆H A Bについて知る。	H A Bとは何か				人と動物の関係学 P17～24		
第5回	動物が人に及ぼす影響①	動物が介在する活動について概要を知る。 生理的效果、心理的效果、社会的効果、使役動物から介在動物へ				P12～13		
第6回	動物が人に及ぼす影響②	動物介在活動(A A A)の定義、事例紹介				P14～15		
第7回	動物が人に及ぼす影響③	動物介在活動(A A T)の定義、事例紹介				P14～15		
第8回	動物が人に及ぼす影響④	動物介在活動(A A E)の定義、事例紹介				P14～15		
第9回	さまざまな、人と動物の関係①	子どもと動物の関係				P17～19		
第10回	さまざまな、人と動物の関係②	高齢者と動物の関係				P20～21		
第11回	さまざまな、人と動物の関係③	罪を犯した人と動物の関係				P21～23		
第12回	さまざまな、人と動物の関係④	使役動物の紹介、使役動物と人の絆				人と動物の関係学 P41～53		
第13回	さまざまな、人と動物の関係⑤	補助犬の紹介、補助犬法、事例紹介				人と動物の関係学 P41～53		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回は行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員				実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	産業動物学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜の種類と特徴を答えられる</li> <li>・主要家畜の飼養管理法をまとめることができる</li> <li>・日本の畜産業の実際について、問題点を把握し設問に答えられる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 産業動物用語について簡単に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
写真やイラストを使用した各種教材を用いた座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	概論	家畜（産業動物）とは何か				P148～150		
第2回	ウシ	1. 家畜化の過程 2. 乳用品種 3. 肉用品種				P151～154		
第3回		4. ウシの体と食性の特徴 5. ウシの飼養管理				P154～165		
第4回	ブタ	1. 家畜化の過程 2. ブタの品種				P166～168		
第5回		3. ブタの体と食性の特徴 4. ブタの飼養管理				P169～P176		
第6回	ニワトリ	1. 家畜化の過程 2. ニワトリの品種				P177～179		
第7回		3. ニワトリの体と食性の特徴 4. ニワトリの飼養管理				P179～186		
第8回	ウマ	1. 家畜化の目的 2. ウマの品種				P187～188		
第9回		3. ウマの体と食性の特徴 4. ウマの飼養管理 5. ウマの新たな利用				P189～192		
第10回	ヒツジ	1. 家畜化の過程 2. ヒツジの品種				P193～194		
第11回		3. ヒツジの体と食性の特徴 4. ヒツジの飼養管理				P194～196		
第12回	ヤギ	1. 家畜化の過程 2. ヤギの品種				P197～198		
第13回		3. ヤギの体と食性の特徴 4. ヤギの飼養管理				p199～200		
第14回	授業振り返り／単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S) : 100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B) : 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D) : 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	田 辺		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	実験動物学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実験動物の歴史や品種、飼養管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物実験の目的や意義を説明できる</li> <li>・代表的な実験動物の飼養管理法を比較説明できる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 実験動物学各種用語について簡単に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
写真やイラストを使用した各種教材を用いた座学学習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	実験動物の定義	動物実験の理解と3R				P204~205		
第2回	実験動物の種類	主な実験動物とその利用				P205~207		
第3回	実験動物のコントロール	遺伝的コントロール、微生物学的コントロール、環境コントロール				P207		
第4回	実験動物の飼養管理	飼育管理法、各種動物の保定の仕方、個体管理と記録、管理者の教育と安全				P208~214		
第5回	実験動物施設見学	実験動物施設を見学し、飼養管理の実際を学ぶ						
第6回								
第7回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第8回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	田 辺		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	野生動物学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野生動物の分類ができる</li> <li>・レッドリストを理解し例を挙げられる</li> <li>・展示動物の説明ができる</li> <li>・外来生物の説明ができる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 実験動物学各種用語について簡単に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
写真やイラストを使用した各種教材を用いた座学学習および校外実習。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	野生動物の定義	野生動物の野生、飼育動物の野性の違い				P 216		
第2回	野性動物の種類と生息分布	日本に生息する野生動物たち				P 216		
第3回	野生動物の食性	草原性動物、森林性動物、荒原性動物				P 221		
第4回	外来動物	外来生物検索リスト、外来生物侵入の原因、影響、対処				P 222～223		
第5回	展示動物の定義	基本的な考え、種類の選択、繁殖、終生飼養				P 230		
第6回	鳥獣害	野性鳥獣による農林水産被害概要				農林水産省HP		
第7回	保全	原生自然環境保全地域、自然環境保全地域、都道府県自然環境保全地域				環境省HP		
第8回	絶滅危惧種とレッドリスト					P 216～220		
第9回	動物園の役割その他					P 230～247		
第10回	動物園研修	京都市動物園研修						
第11回								
第12回	水族館研修	京都水族館研修						
第13回								
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	田 辺		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床看護学各論 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	さまざまな疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な徴候や病態、疾患について理解する。</li> <li>・徴候の評価、記録法について理解する。</li> <li>・徴候・疾患に基づいた援助について理解する。</li> <li>・全身徴候について理解する。</li> <li>・特異的徴候について理解する。</li> <li>・特異的病態について理解する。</li> <li>・各種代表的疾患について理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 臨床動物看護学 総論」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	疾病を伴う多様な機能障害の概要							
第2回	症状別の動物看護【痛み】①	疼痛(痛み)とは、疼痛の種類、痛みを感じるメカニズム				P104~106		
第3回	症状別の動物看護【痛み】②	疼痛のある動物の特徴				P106~110		
第4回	症状別の動物看護【痛み】③	疼痛の程度、有通動物のハンドリング				P110~112		
第5回	症状別の動物看護【痛み】④	疼痛管理				P110~112		
第6回	症状別の動物看護【かゆみ】①	かゆみのある動物(どのような病気が考えられるか)				P113~115		
第7回	症状別の動物看護【かゆみ】②	かゆみのある動物の特徴、かゆみのある動物の看護の注意点				P116~117		
第8回	症状別の動物看護【吐出や嘔吐】	吐出や嘔吐のある動物				P117~119		
第9回	症状別の動物看護【排便の異常】①	下痢				P119~120		
第10回	症状別の動物看護【排便の異常】②	便秘				P120		
第11回	症状別の動物看護【排尿の異常】	排尿異常のある動物				P120~122		
第12回	症状別の動物看護【呼吸異常】	呼吸異常のある動物						
第13回	症状別の動物看護【食欲不振および廃絶】	食欲不振および廃絶の起こっている動物						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	さまざまな疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な徴候や病態、疾患について理解する。</li> <li>徴候の評価、記録法について理解する。</li> <li>徴候・疾患に基づいた援助について理解する。</li> <li>全身徴候について理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>特異的徴候について理解する。</li> <li>特異的病態について理解する。</li> <li>各種代表的疾患について理解する。</li> </ul>					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第6巻 動物看護の実践(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 臨床動物看護学 各論」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	代表的な犬と猫の疾患【脳神経系疾患】①	脳神経系疾患とは、検査				P184～193		
第2回	代表的な犬と猫の疾患【脳神経系疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P184～193		
第3回	代表的な犬と猫の疾患【脳神経系疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P184～193		
第4回	代表的な犬と猫の疾患【筋骨格系および整形外科疾患】①	筋骨格系疾患・整形外科疾患とは、検査				P194～206		
第5回	代表的な犬と猫の疾患【筋骨格系および整形外科疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P194～206		
第6回	代表的な犬と猫の疾患【筋骨格系および整形外科疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P194～206		
第7回	代表的な犬と猫の疾患【消化器・栄養代謝性疾患】①	消化器・栄養代謝性疾患とは、検査				P214～226		
第8回	代表的な犬と猫の疾患【消化器・栄養代謝性疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P214～226		
第9回	代表的な犬と猫の疾患【消化器・栄養代謝性疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P214～226		
第10回	代表的な犬と猫の疾患【消化器・栄養代謝性疾患】④	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P214～226		
第11回	代表的な犬と猫の疾患【呼吸器疾患】①	呼吸器系疾患とは、検査				P227～237		
第12回	代表的な犬と猫の疾患【呼吸器疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P227～237		
第13回	代表的な犬と猫の疾患【呼吸器疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P227～237		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				



2019年度 シラバス

科目名	動物臨床看護学各論Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	さまざまな疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な徴候や病態、疾患について理解する。</li> <li>徴候の評価、記録法について理解する。</li> <li>徴候・疾患に基づいた援助について理解する。</li> <li>全身徴候について理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>特異的徴候について理解する。</li> <li>特異的病態について理解する。</li> <li>各種代表的疾患について理解する。</li> </ul>					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第6巻 動物看護の実践(第2版)」 参考書:インテグラー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 臨床動物看護学 各論」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	代表的な犬と猫の疾患【循環器疾患】①	循環器系疾患とは、検査				P238～247		
第2回	代表的な犬と猫の疾患【循環器疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P238～247		
第3回	代表的な犬と猫の疾患【循環器疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P238～247		
第4回	代表的な犬と猫の疾患【泌尿器疾患】①	泌尿器系疾患とは、検査				P248～255		
第5回	代表的な犬と猫の疾患【泌尿器疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P248～255		
第6回	代表的な犬と猫の疾患【泌尿器疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P248～255		
第7回	代表的な犬と猫の疾患【繁殖・生殖器系・新生子疾患】①	繁殖・生殖器・新生子系疾患とは、検査				P256～265		
第8回	代表的な犬と猫の疾患【繁殖・生殖器系・新生子疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P256～265		
第9回	代表的な犬と猫の疾患【繁殖・生殖器系・新生子疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P256～265		
第10回	代表的な犬と猫の疾患【皮膚科疾患】①	皮膚科疾患とは、検査				P266～291		
第11回	代表的な犬と猫の疾患【皮膚科疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P266～291		
第12回	代表的な犬と猫の疾患【皮膚科疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P266～291		
第13回	代表的な犬と猫の疾患【皮膚科疾患】④	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P266～291		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床看護学各論Ⅳ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	さまざまな疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な徴候や病態、疾患について理解する。</li> <li>徴候の評価、記録法について理解する。</li> <li>徴候・疾患に基づいた援助について理解する。</li> <li>全身徴候について理解する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>特異的徴候について理解する。</li> <li>特異的病態について理解する。</li> <li>各種代表的疾患について理解する。</li> </ul>					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第6巻 動物看護の実践(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 臨床動物看護学 各論」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	代表的な犬と猫の疾患【眼科疾患】①	眼科疾患とは、検査				P292～304		
第2回	代表的な犬と猫の疾患【眼科疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P292～304		
第3回	代表的な犬と猫の疾患【眼科疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P292～304		
第4回	代表的な犬と猫の疾患【血液疾患】①	血液疾患とは、検査				P305～314		
第5回	代表的な犬と猫の疾患【血液疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P305～314		
第6回	代表的な犬と猫の疾患【血液疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P305～314		
第7回	代表的な犬と猫の疾患【内分泌系疾患】①	内分泌系疾患とは、検査				P315～323		
第8回	代表的な犬と猫の疾患【内分泌系疾患】②	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P315～323		
第9回	代表的な犬と猫の疾患【内分泌系疾患】③	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P315～323		
第10回	代表的な犬と猫の疾患【内分泌系疾患】④	各疾患の概要・症状・処置・治療について				P315～323		
第11回	担当動物の看護①	がんの基礎知識(腫瘍の種類、症状など)				P349～355		
第12回	担当動物の看護②	がん治療での動物看護師の役割				P355～359		
第13回	高齢動物の疾患	高齢期の動物の変化、適切な食事管理と飼育管理、入院看護と在宅管理、高齢動物の好発疾患、褥瘡、認知症、介護用品、終末期の迎え方				P369～376		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	実務経験紹介			https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床栄養学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6大栄養素について理解する。</li> <li>・栄養要求の種差について理解する。</li> <li>・食性、嗜好性、摂食行動について理解する。</li> <li>・栄養素の不足、過剰症について理解する。</li> <li>・エネルギー要求量の意味と計算方法を理解する。</li> <li>・飼養標準について理解する。</li> <li>・ライフステージごとの栄養管理について理解する。</li> <li>・ペットフードの種類について理解する。</li> <li>・中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる。</li> <li>・栄養状態の評価法を理解する。</li> <li>・肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する。</li> <li>・さまざまな疾患時の食事療法について理解する。</li> <li>・療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる。</li> <li>・強制給餌の方法と注意点を理解する。</li> <li>・経管・静脈栄養法の種類と特徴、方法を理解する。</li> <li>・チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点を理解する。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第6巻 動物看護の実践(第2版)」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	疾患別による栄養特性 (皮膚疾患①)	皮膚疾患の種類/食物アレルギー①				P159~P164		
第2回	疾患別による栄養特性 (皮膚疾患②)	食物アレルギー②/犬アトピー性皮膚炎				P159~P164		
第3回	疾患別による栄養特性 (肥満)	肥満について				P164~P165		
第4回	疾患別による栄養特性 (下痢・猫の便秘)	下痢について/猫の便秘について				P165~P168		
第5回	疾患別による栄養特性 (心臓病①)	心臓のしくみ				P168~P170		
第6回	疾患別による栄養特性 (心臓病②)	僧帽弁閉鎖不全症とは				P168~P170		
第7回	疾患別による栄養特性 (慢性腎臓病①)	腎臓のしくみ				P170~P172		
第8回	疾患別による栄養特性 (慢性腎臓病②)	慢性腎臓病について				P170~P172		
第9回	疾患別による栄養特性 (肝臓病)	肝臓のしくみ/肝臓病について				P172~P173		
第10回	疾患別による栄養特性 (糖尿病)	糖尿病について				P173~P174		
第11回	疾患別による栄養特性 (関節疾患)	関節疾患について				P174~P176		
第12回	強制的な給餌方法 経路別の栄養	強制給餌方法 経管・計静脈による栄養の種類と違い				第5巻 P86~89		
第13回	中毒物・与えてはいけないもの	犬・猫に危険な、あるいは気をつけたい主な食材とその理由				P181		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤邊 厚太			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	産業動物学実習		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	産業動物の品種、飼養管理法について、実際の現場を見て学ぶ。							
授業の一般目標	産業動物の解剖学的特徴を理解し、イラストやレポートで学んだことを表現できる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
校外実習およびそれに伴う事前・事後学習								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	事前学習	1. 肉用牛実習にて何を学ぶか・心構え 2. 乳用牛および養豚実習にて何を学ぶか・心構え						
第2回	肉用牛実習	農業系高校にて肉用牛の飼養管理を実際に体験する						
第3回								
第4回	乳用牛および養豚実習	農業系高校にて乳用牛および豚の飼養管理を実際に体験する						
第5回								
第6回	事後学習	実習で学んだことをまとめる						
第7回	授業振り返り／単位認定試験(実習レポート)	実習授業を振り返り、レポート課題を提出する。						
第8回	レポート返却／発表と講評	学んだこと、反省点をクラス内で発表・意見交換						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	現地高校教員			実務経験紹介	-			

2019年度 シラバス

科目名	動物内科看護学実習Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物種に応じた安全なハンドリングができる。</li> <li>・動物を安全に散歩・運動させることができる。</li> <li>・基本的なグルーミングを実施できる。</li> <li>・全体状態を評価できる。</li> <li>・バイタルサインを評価できる。</li> <li>・基本的な保定を実施することができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる。</li> <li>・採血・採尿の手順を修得する。</li> <li>・薬剤の取り扱い、経口投与・注射の手順を修得する。</li> <li>・留置針設置の手順を修得し、準備および補助ができる。</li> <li>・輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる。</li> <li>・輸液・輸血中の動物を管理できる。</li> </ul>							
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	グルーミング実習Ⅰ 1	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)ブラッシング						
第2回	グルーミング実習Ⅰ 2	シャンプー実習						
第3回	グルーミング実習Ⅰ 3							
第4回	グルーミング実習Ⅰ 4	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)ブラッシング						
第5回	グルーミング実習Ⅰ 5	シャンプー実習						
第6回	グルーミング実習Ⅰ 6							
第7回	グルーミング実習Ⅰ 7	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)ブラッシング						
第8回	グルーミング実習Ⅰ 8	シャンプー実習						
第9回	グルーミング実習Ⅰ 9							
第10回	グルーミング実習Ⅰ 10	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)ブラッシング						
第11回	グルーミング実習Ⅰ 11	シャンプー実習						
第12回	グルーミング実習Ⅰ 12							
第13回	グルーミング実習Ⅰ 13	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)(試験)ブラッシング(試験)						
第14回	グルーミング実習Ⅰ 14	シャンプー実習(試験)						
第15回	グルーミング実習Ⅰ 15							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物内科看護学実習Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物種に応じた安全なハンドリングができる。</li> <li>動物を安全に散歩・運動させることができる。</li> <li>基本的なグルーミングを実施できる。</li> <li>全体状態を評価できる。</li> <li>バイタルサインを評価できる。</li> <li>基本的な保定を実施することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる。</li> <li>採血・採尿の手順を修得する。</li> <li>薬剤の取り扱い、経口投与・注射の手順を修得する。</li> <li>留置針設置の手順を修得し、準備および補助ができる。</li> <li>輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる。</li> <li>輸液・輸血中の動物を管理できる。</li> </ul>					
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト」 参考書:							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	バイタルチェック・グルーミング実習Ⅱ 1	バイタルチェック・全身状態のチェック 基本的なグルーミング、ブラッシング						
第2回	バイタルチェック・グルーミング実習Ⅱ 2	シャンプー実習						
第3回	保定実習 1	各種処置・検査に合わせた保定						
第4回	バイタルチェック・グルーミング実習Ⅱ 3	バイタルチェック・全身状態のチェック 基本的なグルーミング、ブラッシング						
第5回	バイタルチェック・グルーミング実習Ⅱ 4	シャンプー実習						
第6回	保定実習 2	各種処置・検査に合わせた保定						
第7回	バイタルチェック・グルーミング実習Ⅱ 5	バイタルチェック・全身状態のチェック 基本的なグルーミング、ブラッシング						
第8回	バイタルチェック・グルーミング実習Ⅱ 6	シャンプー実習						
第9回	保定実習 3	各種処置・検査に合わせた保定						
第10回	採血補助実習 1	獣医師の実施手技を見学し、代替教材を活用して実施してみる				実習テキスト: P137~142		
第11回	採血補助実習 2					実習テキスト: P137~142		
第12回	留置針設置補助実習					実習テキスト: P246~249		
第13回	採尿実習					実習テキスト: P142~144		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	高橋		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術器具・リネン類の準備、滅菌ができる。</li> <li>・手術に必要な機器、器械台を準備できる。</li> <li>・手術台への動物の固定、術野の消毒ができる。</li> <li>・手洗い、手術衣や手袋の装着ができる。</li> <li>・麻酔器やモニター機器の接続、使用することができる。</li> <li>・麻酔記録をつけることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接補助・間接補助ができる。</li> <li>・歯科器具の取り扱いを理解し、歯科処置の補助ができる。</li> <li>・術後の創傷管理ができる。</li> <li>・動物に包帯を装着できる。</li> <li>・抜糸の補助ができる。</li> <li>・気管内挿管ができる。</li> <li>・心肺蘇生を補助できる。</li> </ul>							
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」、インターズー出版「動物看護実習テキスト(第2版)」 参考書:インターズー出版「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物外科看護技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	救急救命処置Ⅱ①					2年次に行われる 救急救命セミナーにて		
第2回	救急救命処置Ⅱ②							
第3回	救急救命処置Ⅱ③							
第4回	救急救命処置Ⅱ④							
第5回	手術準備	手術台への動物の固定や器械台の準備、術野の消毒ができる						
第6回	麻酔器・各種モニター装着	麻酔器の接続やモニター機器を動物に接続することができる						
第7回	術中補助	直接補助(手術助手・器械の受け渡しなど)ができる 関節補助(无影灯や手術台の操作など)ができる						
第8回	歯科処置準備・補助	歯科器具の取り扱い方を理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる						
第9回	衛生管理	術後の創傷管理(ネット・カラー装着なども含む)ができる						
第10回	手術見学:事前学習<<グループワーク>>	手術見学において、必要なことを考え準備ができる						
第11回	手術見学:事前準備	手術見学で行われる手術に必要なものを準備することができる						
第12回	手術見学	実際に手術を見学する						
第13回	手術見学:事後学習	前回行った手術について振り返りを行う						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アニマルベーシック／メンテナンスマッサージコース(学生用)の修了を目指した授業							
授業の一般目標	アニマルマッサージの種類や方法、意義を理解した上で、マッサージを実践できる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	配布資料							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. アニマルマッサージの目的や効果を理解した上でマッサージを実践できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
アニマルマッサージに必要な座学知識の修得および動物を用いた実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	人と動物の関係および行動学	アニマルマッサージを始めるにあたっての基礎知識						
第2回		行動学他						
第3回	犬の解剖学および生理学	骨格、筋肉						
第4回		筋肉の停止部と起始部						
第5回	リラクゼーションマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類						
第6回		実践						
第7回	ストレッチング	方法と実践						
第8回	メンテナンスマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類						
第9回		実践						
第10回	スポーツ障害	障害の種類と好発犬種						
第11回	実習／フィールドワーク							
第12回	実習／フィールドワーク							
第13回	実習／フィールドワーク							
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				



2019年度 シラバス

科目名	動物臨床看護学実習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を取得する。							
授業の一般目標	1)入院動物の管理、アセスメントができる。 2)ケージの清掃、管理ができる。 3)ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる。 4)栄養チューブ設置の準備や流動食の調整ができる。 5)褥瘡を持つ動物の看護(体位変換など)ができる。							
受講条件	実習着着用							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:インターズー出版「動物看護実習テキスト 第2版」 参考書:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 入院動物の管理について説明できる。 2. 院内における衛生管理の重要性を説明できる。 3. 栄養チューブの管理ができる。 4. 褥瘡について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 2. ペインスケールを用いて入院動物の痛みの程度を評価できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. ケージの清掃、管理ができる。 2. 体位変換を行うことができる。 3. 栄養チューブの設置準備を行うことができる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ケージの清掃・管理	衛生管理について				実習テキスト P298～303		
第2回	入院動物へのアセスメント	入院動物看護の流れ、退院手続き				実習テキスト P303～308		
第3回	褥瘡を持つ動物への看護	褥瘡を持つ動物への看護を考える。(体位変換や褥瘡保護など)				実習テキスト P303～309		
第4回	給餌について	ペットフードについて				実習テキスト P311～313		
第5回	給餌について	栄養チューブ設置の準備や流動食の調整について				第5巻: P86～89		
第6回	ペインスケールを用いた痛みの判定	ペインスケールを用いて、入院動物(動画)の痛みの程度を測定する				実習テキスト P322～326		
第7回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて学期末試験を受ける				※学生証が必要		
第8回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○				50	秀 (S):100点～90点
小テスト					○		10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○	○					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物臨床看護学実習Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	1)事例(架空の物など)を通して動物アローチの個性について理解する。 2)患者動物の生活環境(家族を含む)が健康に及ぼす影響を理解する。 3)症状や入院・治療が患者動物と家族に及ぼす影響を理解する。 4)看護動物の看護上の問題・ニーズを理解する。		5)看護動物の援助の内容・方法を立案できる。 6)動物看護計画を作成できる。 7)動物看護記録を作成できる。					
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第5巻 動物看護の基礎(第2版)」 参考書:インターズー出版「asbooks 事例でやさしく解説 今からはじめる 動物看護過程」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各事例において必要な情報を収集できる。 2. 各事例に合わせた動物看護計画を計画できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. グループで話し合った動物看護計画を、論理的に説明できる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	動物看護過程の展開①<<肛門周囲腺腫の看護>>	≪グループワーク≫ 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第2回		≪グループワーク 発表≫ グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第3回		≪グループワーク≫ 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第4回	動物看護過程の展開①<<骨折の看護>>	≪グループワーク≫ 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第5回		≪グループワーク 発表≫ グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第6回		≪グループワーク≫ 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第7回	動物看護過程の展開①<<感染症の看護>>	≪グループワーク≫ 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第8回		≪グループワーク 発表≫ グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第9回		≪グループワーク≫ 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第10回	動物看護過程の展開①<<褥瘡の看護>>	≪グループワーク≫ 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第11回		≪グループワーク 発表≫ グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第12回		≪グループワーク≫ 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第13回	期末試験 動物看護過程の展開⑤<<がんの看護>>	≪グループワーク≫ 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する				第13~15回を通しての 動物看護計画の立案・発表 を期末試験とする。		
第14回		≪グループワーク 発表≫ グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第15回		≪グループワーク≫ 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点(定期試験・演習)70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物看護総合実習Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	補助型実習	対象学生	2年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	学校で修得した知識や技術が動物看護業務を实践する上で必須であることを理解する。 飼い主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習の中で、円滑な人間関係を築くうえで必要な技術や能力を修得する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲において行われる実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。</li> <li>・チーム動物医療は獣医師・動物看護師、スタッフ全員が協力して行うチーム医療であることを理解し、良好なコミュニケーションをとる。</li> <li>・動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について認識を深める。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入						
第2回	動物病院実習①	京都市獣医師会会員病院での実習						
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回	前半の事後学習と後半へ向けての事前学習	各自で反省点を見出し、後半実習へ向けて仕切りなおす						
第9回	動物病院実習②	京都市獣医師会会員病院での実習						
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			50	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				40	
担当教員	クラス担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	動物看護総合実習Ⅲ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実務型実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	総合的な動物看護の実務能力を修得するための指導を受け、動物看護師実務能力を修得する。 動物看護師としての役割や責任についての認識を深める。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の助言を受けながら動物病院における獣医師との連携を通じ看護計画の展開を修得し、動物看護を遂行できる能力を養う。</li> <li>・可能な限り多くの項目について技術を体験学習する。</li> <li>・動物院内における、動物看護師の役割やチーム動物医療の機能、行動について考えることができる。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ファームプレス出版「動物看護コアテキスト第2版6巻」、動物看護実習テキスト第2版							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る 各種書類配布および記入						
第2回	動物病院実習	(就職先を見据えた) 動物病院実習				動物病院へ就職しない学生 も本実習は必須		
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ(実習記録、課題)の記入および発表						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習	○		◎				20	
出席			○				10	
担当教員	クラス担当教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	ボランティア活動Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
授業の一般目標	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 今まで勉強してきた動物看護技術を用いてボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、ボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し…								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業概論 主体性とは？	この授業の意義・流れを理解し、今後の授業に臨むことができるようになる。「主体性」と「自主性」の違いを自分の言葉で説明できる						
第2回	動物関係の社会貢献	動物看護の知識を使ってできる社会貢献にどんなものがあるかを知る						
第3回	自分たちでできること	自分たちで、動物看護の知識を使ってできる社会貢献を考える						
第4回	京都動物愛護センター見学	京都動物愛護センター見学をしてボランティア活動とは何かを知る						
第5回								
第6回	京都市動物園見学	京都市動物園見学をして京都市動物園が行っている社会貢献とは何かを考える						
第7回								
第8回	グループワーク：マニュアル作成①	子猫の一時預りボランティアに参画する際に必要なマニュアルを考える						
第9回	グループワーク：マニュアル作成②							
第10回	グループワーク：マニュアル作成③							
第11回	グループワーク：活動前最終確認	子猫の一時預りボランティア開始前に決まったことの最終確認・全体共有						
第12回	グループワーク：活動中間報告①	子猫の一時預りボランティア開始1週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第13回	グループワーク：活動中間報告②	子猫の一時預りボランティア開始2週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第14回	グループワーク：活動中間報告③	子猫の一時預りボランティア開始3週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第15回	この授業を受けて	クラス全体で授業で学んだことを共有						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	クラス担当教員			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/			

2019年度 シラバス

科目名	基本IT技術 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	パワーポイントを使用したスライド作成							
授業の一般目標	パワーポイントを使用して発表スライドを制作できるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料を毎回配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 求められている資料をWord、Excelで作成出来る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	コンピュータの基本操作	ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方						
第2回	文書の作成	ワードの基本操作、文章作成、編集、文字修飾						
第3回	文書の作成	インデントやタブ、ビジネス文書について						
第4回	表の作成	表を挿入し、編集する						
第5回	表の編集	表の体裁を整える						
第6回	表現力アップ	図などの挿入・編集						
第7回	表現力アップ	SmartArtグラフィックなどの挿入・編集						
第8回	エクセルの基礎	エクセルの基本操作と簡単な表の作成						
第9回	エクセルの基本	表の作成、演算子や数式について						
第10回	数式の利用	関数の理解、オートSUMボタンを利用した関数の利用						
第11回	関数の利用	絶対参照と相対参照、関数の挿入ボタンを利用した関数について						
第12回	グラフ	グラフの作成・編集						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習						
第14回	前期振り返り／期末テスト	前期を振り返り、授業内にて期末試験を受ける						
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	吉野		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				

2019年度 シラバス

科目名	基本IT技術Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	実習	対象学生	2年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コンピュータを利用した事務作業やビジネスに必要な文書の作成や表計算について学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。							
授業の一般目標	必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料を毎回配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 効果的なスライド作成が出来るようになる。2. 自身の考えや企画を形にする為に、効果的なスライド作成が出来るようになる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べる事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	基本操作 1	PowerPointソフトはどのようなものか 基本操作とソフトの理解						
第2回	基本操作 2	スライドの作成・デザイン・文字入力と構成						
第3回	基本操作 3	図形や絵の挿入・アニメーション効果・画面の切り替え						
第4回	基本操作 4	表・グラフの挿入						
第5回	基本操作 5	音の挿入と効果的な画像挿入						
第6回	基本操作の振り返り	これまでの基本操作で簡単なスライドを作製する						
第7回	プレゼンのスライド制作 1	序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。						
第8回	プレゼンのスライド制作 2	序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。 参考・引用文献の表記方法						
第9回	発表用スライド作成 1	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第10回	発表用スライド作成 2	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第11回	発表用スライド作成 3	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第12回	発表用スライド作成 4	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第13回	発表用スライド作成 5	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第14回	プレゼン発表 1	模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる						
第15回	プレゼン発表 2	模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	吉野			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	社会常識	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。サービス接客検定合格のために必要な知識の習得。							
授業の一般目標	社会人としての基本的なマナーを身につけ、円滑にコミュニケーションを図れるようになる。 ビジネス電話検定に準じた電話応対ができるようになる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	教科書:サービス接客検定受験ガイド							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 社会常識を知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、コミュニケーション能力向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し...								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	自己紹介	①自己紹介のポイント ②自己紹介の実践						
第2回	身だしなみの基本	①身だしなみの基本 ②男性の身だしなみ ③女性の身だしなみ ④困ったときに役立つもの						
第3回	コミュニケーションの重要性	①バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション ②表情						
第4回	コミュニケーションの重要性	③挨拶と返事 ④お辞儀の基本 ⑤第一印象と第二印象						
第5回	社会人としての話し方・聞き方	①ビジネスにふさわしい話し方 ②分かりやすい話し方のポイント						
第6回	社会人としての話し方・聞き方	③印象を左右することば遣い ④選ぶ言葉で次につながる						
第7回	敬語	敬語の基本						
第8回	指示・報告・連絡・相談のマナー	①指示の受け方・出し方 ②報告の仕方 ③連絡の仕方 ④相談の仕方と忠告の受け方						
第9回	来客応対のマナー	①来客応対の基本 ②来客応対の流れ ③席次の基本 ④お茶の出し方						
第10回	他社訪問のマナー	①訪問前の準備 ②訪問先での振る舞い ③面談の進め方 ④名刺交換と紹介の仕方						
第11回	ビジネス文書の基本	①ビジネス文書の役割 ②社内文書の基本						
第12回	ビジネス文書の基本	③社外文書の基本 ④招待状への返事の仕方 ⑤一筆箋の使い方						
第13回	会食のマナー	①取引先との会食 ②洋食のマナー ③和食のマナー						
第14回	前期振り返り/期末テスト	前期を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける						
第15回	テスト返し/解説	前に行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	金森		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>				



2019年度 シラバス

科目名	ビジネス文章力Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	硬筆検定3級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。							
授業の一般目標	文字を書くにあたって心を整える。文字を書いて相手に伝えることはコミュニケーションの1つであることを知る。書写の基礎基本を自分のものとして定着する。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ペン習字ハンドブック、3級合格のポイント							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 楷書、行書、草書それぞれの違いを知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場や日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、コミュニケーション能力向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
書写を中心とした授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	美しい文字を書く基本。用具テキスト、ドリルなど3級の概要説明						
第2回	硬筆ドリル・理論	文字・漢字の基本的な決まり						
第3回	硬筆ドリル・理論	文字のハネ、はらい、角度を学ぶ						
第4回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第5回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第6回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第7回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第8回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第9回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第10回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第11回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第12回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第13回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第14回	硬筆4級受験模擬	硬筆検定3級試験を想定した模擬試験						
第15回	硬筆5級受験模擬	硬筆検定3級試験を想定した模擬試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	上川		実務経験紹介	ホームページアドレス				

2019年度 シラバス

科目名	コミュニケーション学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コミュニケーション検定上級取得を目指した授業。学生が自身のコミュニケーション力を向上させる。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で挨拶ができる</li> <li>・相手の眼を見て話ができる</li> <li>・相手の話をしっかりと聞ける:傾聴</li> <li>・人前で堂々と発表することができる</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コミュニケーション検定上級公式ガイドブック&問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. コミュニケーションとは何かを理解した上でコミュニケーション力を高めるための努力ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
テキストに沿った問題演習および答え合わせ、解説。グループワークや発表を取り入れたアクティブラーニング。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	コミュニケーション・セオリー (理論)	1. コミュニケーションのもつ力				P 2~4		
第2回		2. 聞く力				P 5~11		
第3回		3. 話す力				P 12~33		
第4回	コミュニケーション・プラクティス (実践基礎)	1-1来客対応 1-2電話対応				P 34~41		
第5回		1-3アポイント・訪問・挨拶				P 42~47		
第6回		1-4情報共有の重要性 1-5チームコミュニケーション				P 48~59		
第7回	コミュニケーション・プラクティス (実践応用)	2-1接客・営業 2-2クレーム対応				P 60~72		
第8回		2-3会議・取材・ヒアリング 2-4面接 2-5プレゼンテーション				P 73~101		
第9回		面接試験対策ロールプレイング						
第10回	N I E : 新聞を使ったワーク①					新聞各紙		
第11回	N I E : 新聞を使ったワーク②					新聞各紙		
第12回	N I E : 新聞を使ったワーク③					新聞各紙		
第13回	N I E : 新聞を使ったワーク④					新聞各紙		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	松田		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	プレゼンテーション学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人に必要なプレゼンテーション能力。 この授業ではビジネスにおけるプレゼンテーションの考え方や心理学的、実践的なプレゼンテーションテクニックを学び、動物看護師としてその知識・技術を活用できるようになることを目標とする。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の伝えたい内容を伝えられるようにプレゼンテーションが行える。</li> <li>人前に出て、緊張せずにプレゼンテーションが行える。</li> </ul>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:資料適宜配布 参考書:日本経済新聞出版「プレゼンテーションの技術」(山本 御稔 著)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. プレゼンテーションを行う相手や各種場面を分析し、その相手・場面に合わせたプレゼンテーションを行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、プレゼンテーション能力の向上のために努力ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自分の伝えたい内容を相手に伝えることができる。 2. チームでプレゼンテーションを行うことができる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの目的・重要性を知る						
第2回	プレゼンテーションの目的設定	自分の話したい内容を客観的に捉え、プレゼンテーションの目的を設定できる						
第3回	自分自身をコントロールするテクニック	人前に出て緊張しなくなるための知識を学ぶ						
第4回	眠くなるプレゼンテーションとは	聴衆が眠たくなるプレゼンテーションの共通点を見出す						
第5回	プレゼンテーションのテクニック①	わかりやすいプレゼンテーションの共通点を見出す						
第6回	プレゼンテーションのテクニック②	認知心理学のテクニックを活用できる (アンカリング、返報性、呼びかけ効果、希少性の原理、楽しさの伝達)						
第7回	プレゼンテーションの実践①	プレゼンテーションのテクニック①、②で学んだテクニックを使って実際にプレゼンテーションができる						
第8回	プレゼンテーションのテクニック③	プレゼンテーションを行う相手を知る。自身の「声の魅力」を生かす						
第9回	プレゼンテーションのテクニック④	実践で活用できるテクニックを知る						
第10回	プレゼンテーションの実践②	プレゼンテーションのテクニック③、④で学んだテクニックを使って実際にプレゼンテーションができる						
第11回	チームプレゼンテーション①	チームプレゼンテーションにおける、 チームワーク・役割分担の重要性を知る						
第12回	発表準備①	14、15回目に行うクラス内発表に向けての準備を行う						
第13回	発表準備②	14、15回目に行うクラス内発表に向けての準備を行う						
第14回	発表①	授業内で学んだテクニックを生かし、発表ができる						
第15回	発表②、総括	授業内で学んだテクニックを生かし、発表ができる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品		○	○	○	◎		60	不可 (E):59点以下
演習			○	○			10	
出席			○				10	
担当教員	吉野		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/				

2019年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ	単位数	1	科目コード										
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期									
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有									
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。													
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。													
受講条件	特になし													
事前学習について (テキスト・参考書等)														
授業の到達目標														
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。													
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。													
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。													
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。													
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。													
授業計画(全体)														
授業計画(授業単位)														
回	主題	授業内容	備考											
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける												
第2回														
第3回														
第4回														
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す					グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる								
第6回														
第7回														
第8回														
第9回														
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す								グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる					
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回	飼育実技試験											グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる		
成績評価方法														
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上														
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現							その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○								50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点						
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点						
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点						
発表・作品							-	不可 (E):59点以下						
演習			○	○			20							
出席			○				10							
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>										

2019年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ	単位数	1	科目コード					
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期				
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。								
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。								
受講条件	特になし								
事前学習について (テキスト・参考書等)									
授業の到達目標									
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、個人で適切な解答ができる。								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自らの工夫と試行錯誤を重ねながら、看護技術の向上のために努力できる。								
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. チーム医療を意識し、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。								
授業計画(全体)									
基本的な知識を修得し・・・									
授業計画(授業単位)									
回	主 題	授 業 内 容			備 考				
第1回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける							
第2回									
第3回									
第4回									
第5回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す								
第6回									
第7回									
第8回									
第9回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す								
第10回									
第11回									
第12回									
第13回	学年末試験①					2チームに分かれ、前半組が実習試験 後半組は筆記試験を行う			※飼育動物の頭数・ストレスを考え、学年末試験は2回に分けて行う
第14回	学年末試験②					前回のチームで、後半組が実習試験 前半組は筆記試験を行う			※学生証が必要
第15回	飼育実習の総括					動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける			
成績評価方法									
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上									
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点	
小テスト							-	優 (A):89点～80点	
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点	
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点	
発表・作品							-	不可(E):59点以下	
演習			○	○			20		
出席			○				10		
担当教員	北村		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>					

2019年度 シラバス

科目名	統一試験対策Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。							
授業の一般目標	今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:2020年度資格試験対策問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物看護師統一認定試験の過去問や予想問題の各問題について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	過去問実施①	2018年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第2回	勉強の仕方について 2018年度過去問解説	この授業の進み方を知り試験勉強を効率よくすることができる 前回の問題の正答率が低い問題を解くことができる						
第3回	2018年度過去問グループワーク①	正答率の低い問題を他者に説明する				4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表		
第4回	2018年度過去問グループワーク②	正答率の低い問題を他者に説明する						
第5回	2018年度過去問グループワーク③	正答率の低い問題を他者に説明する						
第6回	2018年度過去問グループワーク④	正答率の低い問題を他者に説明する						
第7回	2018年度過去問グループワーク⑤	正答率の低い問題を他者に説明する						
第8回	過去問実施②	2019年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第9回	2019年度過去問グループワーク①	正答率の低い問題を他者に説明する				4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表		
第10回	2019年度過去問グループワーク②	正答率の低い問題を他者に説明する						
第11回	2019年度過去問グループワーク③	正答率の低い問題を他者に説明する						
第12回	2019年度過去問グループワーク④	正答率の低い問題を他者に説明する						
第13回	2019年度過去問グループワーク⑤	正答率の低い問題を他者に説明する						
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	看護科教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	統一試験対策Ⅱ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。							
授業の一般目標	今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:2020年度資格試験対策問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物看護師統一認定試験の過去問や予想問題の各問題について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し...								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	過去問実施④	2017年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第2回	2017年度過去問ペアワーク①	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第3回	2017年度過去問ペアワーク②	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第4回	2017年度過去問ペアワーク③	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第5回	2017年度過去問ペアワーク④ (解説発表)	人前で各問題の解説ができる						
第6回	過去問実施⑤	2016年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第7回	2016年度過去問ペアワーク①	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第8回	2016年度過去問ペアワーク②	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第9回	2016年度過去問ペアワーク③	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第10回	2016年度過去問ペアワーク④ (解説発表)	人前で各問題の解説ができる						
第11回	過去問実施⑥	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第12回	2020年度予想問題ペアワーク①	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第13回	2020年度予想問題ペアワーク②	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第14回	2020年度予想問題度過去問ペアワーク③ (解説発表)	人前で各問題の解説ができる						
第15回	単位認定試験	授業内にて単位認定試験を受ける			※学生証が必要			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	看護科教員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			

2019年度 シラバス

科目名	アニマルヘルパー		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	独立開業を目指す場合やトリマー、、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテルなどの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。							
授業の一般目標	アニマルヘルパーが行うペット訪問サポートについて実践的に身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 生涯学習とは何かについて説明できる。2. 教育の各領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 教育に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 日常生活の中で教育問題について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し・・・								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	導入・インフォメーション	講座の目標、講座終了までの流れ、配布資料の確認						
第2回	犬の行動 ①	犬の発達過程、犬種特性、ボディランゲージ						
第3回	猫の行動 ①	猫の発達過程、ボディランゲージ、排泄や爪とぎなど猫特有の行動						
第4回	ヘルパー業務 (犬 ①)	犬のお世話をする際の注意事項や散歩や食事など依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第5回	ヘルパー業務 (犬 ②)							
第6回	ヘルパー業務 (猫 ①)	猫のお世話をする際の注意事項やトイレ掃除や遊びなど依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第7回	ヘルパー業務 (猫 ②)							
第8回	エキゾチックアニマル	一般的な小動物の具体的なお世話や注意事項						
第9回	要介護動物のケア ①	食事介護や排泄介護、運動介護など、特別に看護ケが必要な動物の対応						
第10回	要介護動物のケア ②							
第11回	訪問時の心肺蘇生術	訪問サービス時の心肺蘇生法のタイミングや具体的な方法						
第12回	修了試験	確認テスト						
成績評価方法								
単位認定 修了試験で総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			25	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				25	
担当教員	(一般社団法人)日本ペットサービス研究会			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</a>			





2019 動物看護科 シラバス

発行 YIC京都ペット総合専門学校

発行日 2019年 4月 1日

編集 学校法人京都中央学院

〒600-8236 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町 27 番地

TEL 075-371-4044 FAX 075-343-3821

本便覧の複写および無断転載を禁ずる。